

# 平成27年度 普及のあゆみ



平成28年3月

熊毛支庁屋久島事務所農林普及課  
鹿児島県熊毛郡屋久島町安房650番地  
TEL 0997-46-2236  
FAX 0997-46-3384

## は じ め に

農業・農村を巡る環境は、農業従事者の高齢化や減少による担い手、生産年齢層の減少、これに伴う産地や集落の機能低下など地域農業の存続が危ぶまれています。国際的には、環太平洋経済連携協定(TPP)交渉も大枠合意の中、本県の基幹産業への影響が危惧されています。国際化の進展や国内産地間競争の激化、消費者の食の安心・安全に対する関心の高まりへの対応など課題は山積しています。

本県では、平成27年3月に改訂された国の新たな「食料・農業・農村基本計画」に基づく食料の安定供給確保、農村の振興、農業の持続的発展等の農業政策への対応を進めています。また、「かごしまの食と農の県民条例の基本方針」の策定及び「食と農の先進県づくり大綱」の見直しを行い、鹿児島県「攻めの農業」プランを作成しています。

具体的には、生産力の強化、販売力の強化、付加価値向上への取組強化、農村の多面的機能の維持・発揮を強化しているところです。

農業普及係では、これらを踏まえ、地域農業のめざすべき姿を長期的に展望し、7普及課題を設定、関係機関・団体等と連携、目標共有して農業者とともに地域課題の解決に向けて活動して参りました。今回、普及活動について、活動経過・成果、実証・展示ほの成績を「普及のあゆみ」としてまとめました。これらの成果が、個別経営の改善・所得向上、地域振興に活かされることを期待いたします。

農業情勢は逐次変化しています。屋久島農業には、変化に対応できる型(形・体制)が必要です。「変化する農業情勢にどう対応していくべきか」、受け入れる型はその都度変化していかなければなりません。変化する中身(農業情勢)が変われば、型も変わる必要があるでしょう。その型を作っておかなければ、今後10年、20年先、変化に耐えられなくなってしまう。その先鋒として、普及活動は、農家、農業、農村を守るために、変化に耐えられる型づくりに関係機関と連携強化して取り組みます。

最後に、実証ほ・展示ほの設置等にご協力いただきました農業者の方々、普及指導活動を展開するにあたり、御協力いただいた普及指導協力委員の方々、屋久島町、屋久島町農業委員会、種子屋久農業協同組合等関係機関・団体のみなさまに、心より感謝申し上げます。

平成28年3月

屋久島事務所農林普及課

課長 淵之上修一

# 目 次

## I 普及活動事例

- 1 屋久島農業を担う人材の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 たんかん・ぼんかん栽培農家の経営安定・・・・・・・・・・・・ 3
- 3 屋久島の特性を活かした茶産地づくり・・・・・・・・・・・・ 5
- 4 地域の特性を活かした畑作農家の育成・・・・・・・・・・・・ 7
- 5 生産性の高い肉用牛経営の確立・推進・・・・・・・・・・・・ 8
- 6 持続的な地域農業の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 7 屋久島の農林水産物を活かした地産地消ビジネスの推進・・・・ 11

## II 実証・展示ほ等成績

- 1 ぼんかん優良系統の選抜・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 2 「ハーフソイラ」活用による排水対策の検討・・・・・・・・・・ 17
- 3 炭疽病に対する新規農薬の防除効果・・・・・・・・・・・・ 19
- 4 チャトゲコナジラミの発生状況の把握・・・・・・・・・・・・ 20

## III 参考資料

- 1 平成27年の主要作物生育経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- 2 平成27年の気象データ及び気象災害・・・・・・・・・・・・ 23
- 3 ミカンコミバエ種群発生及び防除対策・・・・・・・・・・・・ 27
- 4 ミニ情報でつづるこの1年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

## I 普及活動事例

### 課題名：屋久島農業を担う人材の確保・育成

#### 1 対象

認定農業者77戸，町認定農業者連絡協議会1組織，屋久島町アグリネット41名，  
経営体育成支援対象者15戸，研究会組織4組織，  
新規就農者13名，屋久島4Hクラブ11名，屋久島つわぶき会17名，若手女性農業者15名

#### 2 課題を取り上げた背景

- (1) 町の基本構想の目標所得（320万円）を達成している認定農業者が少ない現状で，今後，地域の農業生産を維持していくためには，認定農業者等の担い手（女性農業者含む）が地域の農業生産の相当部分を担うような農業構造を確立する必要がある。そのためには，目標所得を達成できるような意欲的な農業者の確保育成が必要である。
- (2) 高齢化が進む中将来の担い手を確保するため，関係機関・農家協力のもと，部門研修や基礎研修会等の充実を図り，新規就農者の定着支援が必要である。また，新規就農者等に屋久島4Hクラブへの加入誘導を図り，組織活動を通じた次代の農村リーダーとしての資質向上・能力向上を支援する必要がある。農業青年に対しては，プロジェクト活動等による生産・経営管理技術の向上支援が必要である。

#### 3 活動内容

- (1) 認定農業者等の確保・育成
  - ア 推進体制の充実  
町担い手育成協議会において，アクションサポートチーム会（4回）の中で，認定農業者等の確保や研修企画検討を行った。
  - イ 新規認定農業者及び再認定者への支援  
再認定者の計画達成状況及び計画作成支援を行うとともに，新規認定農業者の掘り起こし，計画作成指導を行った。
- (2) 地域農業を牽引するモデル経営体の育成
  - ア 経営改善計画の実現と所得の向上  
パソコン簿記研修（14回）や認定農業者研修会での資金活用研修において，改善計画実現のための経営実態の把握を指導した。
  - イ 経営診断をもとにした経営改善の検討  
経営改善のため，政策金融公庫経営相談会を6回行い，農業制度資金を活用した改善を誘導検討した。また9月に県内の最近法人化した経営者を招き，法人の経営展開等を研修した。
  - ウ 産地育成に向けた研究会活動支援  
4研究会（畑作，果樹，茶，肉用牛）をとおして，各作目の課題解決に取り組んだ。
- (3) 新規就農者及び青年農業者の確保・育成
  - ア 新規就農者の定着支援  
新規就農者励ましの会や現地就農トレーナーと連携した基礎研修会，個別巡回等により新規就農者の営農や定着を支援した。
  - イ プロジェクト活動の実践等による生産・経営技術の向上支援  
4Hクラブ会員のプロジェクト活動について，課題設定，計画作成，実践，とりまとめ，発表の各段階を支援した。地区青年農業者会議では，6名が発表し，うち1名を青年農業士へ誘導した。また現地就農トレーナーと連携した部門研修（茶，果樹）を開催し，生産・経営技術の向上を支援した。
- (4) 農村女性の農業経営等参画支援
  - ア 農村女性の技術・経営管理能力等の習得支援  
世代の異なる農村女性の合同研修会の実施し，経営改善に向けた技術の習得や農業経営に関する相談活動を支援した。  
また，多数の女性農業者を参集範囲とした交流研修会の企画，開催等を支援し，女性農業経営士の助言や交流等を通じて若手女性農業者の経営参画意欲や課題解決能力の向上を図った。さらに，他農業者組織とと



認定農業者研修会



女性農業者交流研修会



もに島外研修も実施し幅広い情報収集を支援した。

#### 4 活動の成果

- (1) 3戸に対し新規認定農業者の計画作成指導を行い、法人2戸が認定された。また23名の再認定を支援し、将来の営農への取り組みが明確となった。アグリネット会員のパソコン簿記研修では延べ101名が参加し、複式簿記による経営管理指導を行った。
- (2) 認定農業者に対して政策金融公庫経営相談会を6回行い、11名が経営・資金相談を行い、6名が資金利用で経営改善中である。
- (3) プロジェクト活動については、継続的に取り組むようになり、また、新規会員も取組を開始した。プロジェクト完成者1名を青年農業士へ誘導し、認定された。
- (4) 6次産業化志向農家を対象としたセミナー(屋久島自然の恵みチャレンジ事業セミナー6回開催)に9名の女性農業者が参加した。また、販売力の強化に向けて「女性農業次世代リーダー育成塾」や新特産品コンクールへの応募、商談会の参加等の取組につながっている。さらに、家族経営協定の締結し認定農業者の共同申請をする女性農業者が1名増加した。



パソコン簿記帳内容をチェック中



青年農業士を知事から認定

#### 5 今後の課題

- (1) 認定農業者の高齢化、後継者難、経営基盤の脆弱化が課題であり、減少傾向にある。重点的に新規者の確保や再認定時の計画検討、相談会等での改善計画の支援を図る必要がある。
- (2) モデル経営体に対しては技術の向上とともに、法人化等の多様な経営形態の提案を行う必要がある。また産地維持育成に向けた研究会活動の支援強化を図る必要がある。
- (3) プロジェクト活動の継続実施及び青年農業士への認定に向けて支援する。
- (4) 家族経営協定の締結や認定農業者の共同申請を推進し、農業経営の中での女性の位置づけを明確化し、主体的に経営参画に参画する女性農業者の育成を支援する。

#### 6 農家の声

経営改善相談会に出席した農家から、「今回借りることができなかったが、今後の方向が見えてきた」「経営管理が大事だ」との声を、また公庫資金借入で経営改善に取り組んでいる農家は「自分の取組を充実させさらに伸ばしたい」「また拡大できないか？」など、前向きな声であった。

#### 7 担当した普及職員(○はチーフ)

田淵, 上福元, ○徳田, 内村, 入料

## I 普及活動事例

### 課題名：たんかん・ぼんかん栽培農家の経営安定

1 対象 果樹栽培農家340戸 J A果樹部会265戸 果樹研究会21戸 ACCY 5人

### 2 課題を取り上げた背景

屋久島では、ぼんかん、たんかん主体の果樹経営だが、景気の低迷、贈答需要の減少等により市場単価は低下傾向が続いている。また、様々な高糖系中晩柑類など産地間競争は激しくなっている。

このような中、果樹農家の経営安定には省力化機械導入の普及や生産性の低い老木の改植に向けた取組が必要である。

また、生産者、関係機関・団体が連携を密にし、産地課題の解決を図る必要がある。

### 3 活動内容

- (1) 果樹産地再編  
省力化機械、特にスピードスプレイヤーの導入の可否や老木園の調査を行った。  
また、改植に向けた樹種の検討を行った。
- (2) 産地力の維持  
果樹生産組織を対象に病虫害防除や栽培管理、土壌管理などについて、各研修会や講習会を通して指導した。また、フルーツ情報をとおして基本管理徹底の重要性を情報提供した。
- (3) 若手果樹生産者への支援強化  
果樹若手生産者を対象に、技術や資質向上に関する支援に取り組んだ。

### 4 活動の成果

- (1) 果樹面積の多い地区の樹園地調査を行い、スピードスプレイヤーの導入の可否や改植が必要な面積の把握ができた。また、改植に向けた樹種の検討を行い、改植先として「K P - 2（早生系ぼんかん）」、「みはや」、「津之輝」、「黄みかん（黄金柑）」を位置づけた。
- (2) フルーツ情報は、カラー印刷したことと、内容を充実させたことにより、読まれる方が多くなった。高品質果樹生産研修会では、改植事業の説明や有望な品種の紹介を行い、改植に向けた気運が高まった。
- (3) 若手果樹農家で少しずつであるが、規模拡大を行ったり、スピードスプレイヤーの導入を図る農家が出てきた。

### 5 今後の課題

- (1) 改植先の4樹種の屋久島での現地試験。特に栽培事例のない「みはや」
- (2) スピードスプレイヤーに導入に向けた推進
- (3) 改植事業のPRと推進
- (4) 若手果樹農家の個別支援

### 6 農家の声

- (1) 改植事業に取り組みたいが、たんかんの老木の垂水1号を事業対象にできるように要望して欲しい。
- (2) 早生ぼんかんのK P - 2の品種登録を急いで欲しい。

### 7 担当した普及職員（○はチーフ）

○田淵

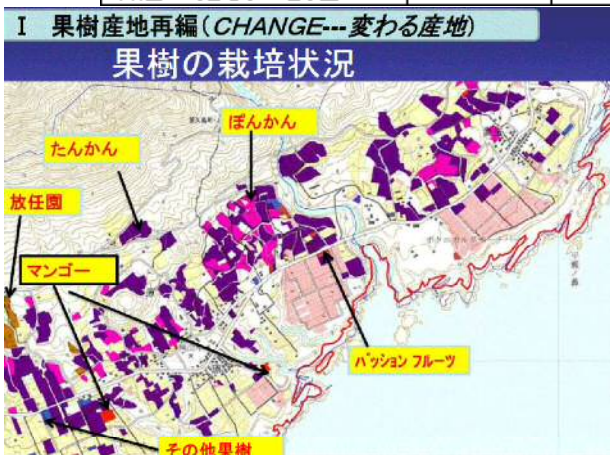


# 樹園地調査結果

集落名	湯泊		平内		小島	
	面積(ha)	筆数(筆)	面積(ha)	筆数(筆)	面積(ha)	筆数(筆)
果樹栽培面積	36.4	228	47.5	259	33	162
岩が多く省力化不可	21%	17%	37%	40%	2%	1%
改植が必要な割合	45%	35%	19%	18%	36%	33%

集落名	原		麦生(含む高平)		計	
	面積(ha)	筆数(筆)	面積(ha)	筆数(筆)	面積(ha)	筆数(筆)
果樹栽培面積	65.2	440	92.2	388	274.3	1,477
岩が多く省力化不可	27%	22%	20%	17%	22%	20%
改植が必要な割合	47%	48%	14%	13%	29%	31%



樹の栽培状況 (水土里情報ネットから)



スピードスプレイヤーに導入可否 (水土里情報ネットから)

果



改植の必要性 (水土里情報ネットから)



出荷前の目揃え会 まさかの雪



高品質果樹生産技術研修会  
テーマ：「老木からの脱却」



今年の階級はM, L  
原地区摘果研修会



農政部長来島  
若手果樹農家との意見交換

## I 普及活動事例

### 課題名：屋久島の特性を活かした茶産地づくり

1 対象 屋久島町茶業振興会25戸

### 2 課題を取り上げた背景

茶栽培面積は、耕作放棄地を活用した新植等で増加傾向にあるが、生産者は、高齢化等により減少傾向である。一方、荒茶価格は、リーフ茶の消費減退等により市場単価が低迷しているが、走り新茶産地として、特に一番茶については、深蒸しや適期摘採による高品質茶生産が流通関係者から評価され、市場単価は安定しつつある。そこで、近年の消費者の安全・安心志向の高まりにも対応しつつ、生産基盤を強化し、生産管理技術の向上等を通して、茶生産者の経営安定を図る必要がある。

### 3 活動内容

#### (1) 生産基盤の強化

##### ア 摘採作業共同化の推進

摘採作業の共同化を推進するため、摘採計画システムを活用した生産体系(摘採順、生葉量、茶工場の操業時間等)の検討、運営を行い、課題等の整理を支援した。

#### (2) 生産管理技術の向上

##### ア 高品質茶生産の推進

摘採判定会や製造講習会、秋期茶園管理研修会等の研修会を開催し、芽格による摘採や生産実績をリアルタイムで把握できるシステムを活用した摘採・製造、樹勢維持・回復等の品質向上対策を指導した。また、消費者への品質に対する知名度向上のために熊本地区荒茶求評会での上位入賞者数の増加を図った。

##### イ 夏茶の生産・流通体制の整備

樹勢維持・回復対策及び採算が合わず夏茶を生産していなかった生産者等に対して大手茶商との契約取引(生葉)による流通体制の強化を行った。

#### (3) 安全・安心なクリーンな茶づくりの推進

##### ウ 生産履歴システムの効率的な活用方法の検討

J-GAP等の第三者認証取得工場拡大のために、生産履歴を活用した技術診断を行い、生産履歴システムの効率的な活用方法を検討した。

### 4 活動の成果

(1) 摘採計画システムを活用した生産体系のデータ蓄積し、秋冬番茶からコンテナ式摘採機導入による共同摘採を実施した。得られた問題点や課題等を整理し、生産体系の整備ができた。

(2) 本年産一番茶は、日照不足や急激な気温上昇等により、収量が少なかったが、芽格を重視しつつ、生産実績を考慮した摘採を実施し、高品質茶生産を行った。茶商等からの品質の評価も高く、高品質茶生産の継続に対する生産者の意識が向上した。

熊本地区荒茶求評会に7人が出品、最優秀賞を含め5人が入賞した。この情報が新聞等で紹介されたことで、屋久島の茶の品質が高いことを広く消費者にPRすることができた。

長雨や日照不足の影響で、夏茶も収量が少なかったが、市況が厳しい中で、大手茶商と契約取引する流通体制を強化することができた。

(3) 生産履歴を活用し、粗収益等をリアルタイムで把握できるシステムを作成した。粗収益の把握(前年比の7割程度)により、コスト削減や資金繰り等の対策等に活用することができた。

### 5 今後の課題

(1) 共同摘採作業の円滑な運営及び摘採作業省力化による規模拡大、廃業に伴う茶園の流動化

(2) 気象変動の影響を受けにくい生産技術及び品質を維持しつつ収益を確保する茶園仕立ての検討

チャトゲコナジラミ防除等に対応した茶園管理暦の改訂

(3) 生産履歴の効率的活用方法の検討



## 6 農家の声

日照不足や急激な気温上昇等により全県的に収量が少なく、品質の確保が厳しい条件であったが、一番茶については、高品質茶生産の継続及び品質を維持することができた。茶商等の流通関係者から品質を高く評価され、荒茶の引き合いも強かった。しかし、収量が少なく、粗収益が大幅に減少したことから、気象変動の影響を受けにくくかつ収益を安定的に確保できる生産技術体系の確立ができることを期待する。

## 7 担当した普及職員（○はチーフ）

○内村



一番茶芽生育調査及び摘採判定会



屋久島茶PR活動(ふるさと産業祭り)



一番茶互評会



熊毛地区荒茶求評会最優秀賞受賞



秋期茶園管理研修会



コンテナ式常用型摘採機による共同摘採

## I 普及活動事例

### 課題名：地域の特性を活かした畑作農家の育成

1 対象 畑作農家35戸，畑作研究会7戸，焼酎用さつまいも農家13戸，  
ソロヤム増収対策協議会16戸，JA野菜部会ばれいしょ栽培農家18戸

### 2 課題を取り上げた背景

畑作農家の規模拡大を図り，実需者のニーズに対応し，継続出荷できる体制を確立する必要があるが，その担い手となる畑作農家が少ない。南部地区を中心に基盤整備が進んでおり，畑作農家の育成が必要である。

### 3 活動内容

(1) 畑作営農の支援体制の強化

ア 畑作営農支援体制の検討

畑作物の生産拡大へ向けて，地域で抱える課題を検討した。また，課題解決へ向けた支援体制を検討した。

(2) 畑作物の生産性向上

ア 焼酎用さつまいも

屋久島では冬期の労働競合で育苗作業が遅れ，苗確保に苦慮していることが課題であったため，新たな苗確保対策である秋植え作型からの採苗体系を検討した。

イ ソロヤム

新規栽培者に対し，栽培管理支援を行った。  
また，農業開発総合センター熊毛支場と連携し，優良種苗が供給できるよう支援を行った。

ウ ばれいしょ

「ハーフソイラ」を活用した排水対策実証ほを設置し，効果確認を行った。



焼酎用さつまいも検討会

### 4 活動の成果

(1) 畑作営農の支援体制の強化

ア 畑作営農支援体制の検討

焼酎用さつまいもの生産拡大へ向けて，地域で抱える課題を関係機関で共有することができた。また，今後の支援体制について，検討することができた。

(2) 畑作物の生産性向上

ア 焼酎用さつまいも

秋植え夏収穫型からの苗確保は，冬期の気温差が地域によって約2℃程度差があることがわかり，気温が低い地域では生育が悪く，地域全体への普及は難しいと考えられた。

イ ソロヤム

昨年度と比較して収量が高くなった生産者が多く，次年度以降の栽培意欲が高まった。  
農業開発総合センター熊毛支場と連携し，生産者へ優良な種芋が供給され，品質が安定してきた。

ウ ばれいしょ

「ハーフソイラ」活用により，降雨後に畑から水が引く時間が短くなり，排水不良による萌芽不良が改善された。

### 5 今後の課題

(1) 焼酎用さつまいもの育苗改善（ハウス育苗の検討，バイオ苗の活用）

(2) ソロヤムの島内種芋供給体系の検討

(3) ばれいしょの病害対策（疫病及びそうか病対策の検討）

### 6 農家の声

「ハーフソイラ」の利用により，排水不良改善に効果はみられるが，やはり，ほ場によっては下層の礫が作土層にあがってくる所もある。今後，継続調査をしながら，よりよい方法を探ってもらいたい。

### 7 担当した普及職員（○はチーフ）

○入料



## I 普及活動事例

### 課題名：生産性の高い肉用牛経営の確立・推進

1 対象 屋久島町和牛振興会 18人（和牛研究会 8戸），口永良部肉用牛農家 4人

### 2 課題を取り上げた背景

- (1) 屋久島の肉用牛農家は、高齢化、生産コスト高が進むなか、飼養頭数が減少傾向にあり、産地規模の維持を図るには、経営基盤の強化と生産技術の平準化が必要である。
- (2) 増頭意欲の高い農家に対して、経営上の問題点を明確にし、経営改善の方向性を具体化するとともに、農家間の高い技術力の平準化を図る。

### 3 活動内容

#### (1) 産地規模の維持

飼養規模維持拡大志向農家を「和牛研究会」として指導対象に位置づけ、すべて認定農業者の改善計画作成を指導した。うち2戸に対し公庫資金計画作成、借入を支援した。

#### (2) 繁殖成績の向上

繁殖成績の平均以下の農家には、個別指導で母牛管理と飼養環境改善を指導した。また密飼い防止のため町牧場への預託を検討した。

#### (3) 子牛の商品性向上

血統、発育などで子牛の商品性は高いが、子牛疾病が依然として多く、記録観察不足による見逃しや子牛環境改善、飼料給与、キャトルセンター利用について指導検討した。



資金計画を公庫職員と何度も検討

#### (4) 自給飼料等の確保利用

自給飼料栽培農家は面積拡大が図られてきたが、収量品質に課題があり、焼酎粕等の低利用資源を含めた総合的な飼料利用の検討が必要である。

### 4 活動の成果

- (1) 公庫資金計画を作成した2戸が資金を活用し牛舎増築や15頭の規模拡大を実施中で、2戸が認定農業者となり、認定農業者がパソコン簿記に挑戦するなど経営改善が図られつつある。
- (2) 母牛子牛の飼養環境改善のため町牧場預託利用を行った農家の子牛商品性が向上した。また繁殖ボードを利用した「見える化」を図り、繁殖成績の向上が図られつつある。



町、郡品評会で育成牛の資質を評価

### 5 今後の課題

- (1) 和牛研究会を中心としてパソコン簿記帳の推進、認定農業者への誘導（1戸）、公庫資金利用を波及させる必要がある。
- (2) 記録観察といった基本を徹底した上で、牛舎環境の改善を図り、事故率の低減に努める必要がある。
- (3) モデル農家を中心に、子牛発育の基礎を定期指導により習得する機会を設け、給与、管理技術の定着を図る。

### 6 農家の声

「認定農業者になりたい」「牛舎環境、作業環境を整えたい」「牛を増やしたい」との声に率直に応えた結果、「次のステップ」を真剣に考えるようになった。「将来に向けての足がかりができた」と後継者とともに語ってくれた。

### 7 担当した普及職員（○はチーフ）

○徳田



## I 普及活動事例

### 課題名：持続的な地域農業の推進

1 対象 管内全集落，神山校区，湯泊集落いけんかすっ会11戸（12名）

### 2 課題を取り上げた背景

高齢化の進行，担い手農家の減少とともに樹園地をはじめとする農地の荒廃がすすみつつあり，地域ぐるみで地域営農のあり方に向けた検討と仕組みづくりについて，農地中間管理事業の活用や人・農地プランの検討等を通してすすめていく必要がある。

また，鈴岳地区の畑かん事業が完了し，基盤整備やかん排水，スプリンクラーなど整備された。湯泊集落では，その農地を活用して焼酎用さつまいも作りに取り組み始めたが，栽培経験が短く，栽培に関する知識・技術の習得を支援する必要がある。

### 3 活動内容

(1) モデル地区の合意形成支援

ア 推進地区の話し合い活動支援

「農地中間管理事業」の説明会や「人・農地プラン」の見直し・未策定集落の検討会に参加し，集落での話し合い活動を支援した。

イ 湯泊集落いけんかすっ会への活動支援

月1回開催される定例会に参加し，活動の進行管理や話し合い活動を通して出された新たな取り組み事項について支援した。

(2) 焼酎用さつまいもの栽培技術の向上

今年で3作目となることから，適期栽培管理作業を徹底し，目標収量を確保するよう指導し，いけんかすっ会が主体的に作業を行った。

### 4 活動の成果

(1) モデル地区の合意形成支援

ア 推進地区の話し合い活動支援

集落での話し合い活動の必要性を認識し，神山校区(4集落)の内3集落が「農地中間管理事業」に取組，地区内の農地の利用について検討が始まった。また，小島地区でも「人・農地プラン」の話し合いが始まり，中心経営体となりうる新規認定農業者の掘り起こしにつながった。

イ 湯泊集落いけんかすっ会への活動支援

耕作放棄地園の管理や出荷できない果実の加工について検討したところ，今年度は，1名の園の管理を全面的に受託した。また，果実の加工については，他地区の女性農業者の助言をもらいながら，約400kgのたんかんを搾汁した。この加工については，集落内の女性グループ「茶にせんかい」の会員にも協力をもらった。

(2) 焼酎用さつまいもの栽培技術の向上

長雨の影響でしばらく適期作業ができない時期もあったが，おおむね適時に管理作業ができ目標単収2トンを達成した。また，収穫作業は，集落の子供たちや「茶にせんかい」の会員ら多数参加し，効率よく実施できた。

### 5 今後の課題

(1) モデル地区の合意形成支援

ア 推進地区の話し合い活動支援

「農地中間管理事業」の説明会や「人・農地プラン」作成・見直しを契機に引き続き，町と連携して，屋久島町内での集落での話し合い活動や地域営農の取り組みを啓発・推進する。

イ 湯泊集落いけんかすっ会への活動支援

「茶にせんかい」と連携を図りながら，集落の活性化のために，耕作放棄地園の管理や出荷できない果実の加工について実践を支援する。

(2) モデル地区における農地利用の検討

「農地中間管理事業」に取組，地区内の農地の利用について検討が始まった地区について，円滑に検討がすすむよう支援していく。

## 6 農家の声

高齢化率45%を超える集落で、将来の湯泊農業のために集落営農を行う組織を結成しました。27年度は、3年目となる約35aの焼耐用さつまいもを共同作業の収穫作業を「茶にせんかい」や集落の子供たちにも声をかけ、大人数でしました。いけんかすっ会の活動を理解してもらうきっかけになったと思います。また、たんかんの果汁絞りにも挑戦しました。今後も、新たな作物の選定、経営が困難になった果樹園の対策、土地の流動化問題、6次産業化への取り組み等、集落の活性化と存続のため少しずつ前進したい。

## 7 担当した普及職員（○はチーフ）

田淵，○上福元，徳田，内村，入料



「農地中間管理事業」説明会(原地区)



湯泊地区いけんかすっ会定例会



焼耐用いも植え付け(共同作業)



焼耐用いも収穫(共同作業)



茶にせんかいの活動(湯泊地区)



たんかんの果汁絞り試作(共同作業)



# I 普及活動事例

## 課題名：屋久島地域の農林水産物を活かした食育・地産地消ビジネスの推進

1 対象 女性起業グループ9G, 6次産業化農家及び志向農家10戸

### 2 課題を取り上げた背景

近年の農産物等の価格低迷により、管内でも農産加工や直売等の6次産業化に個別に取り組みたいという農業者が増えてきている。屋久島ではいち早く生産、農産加工・販売に取り組むモデル果樹農家もいる。平成24年度以降、3戸の農業者が六次産業化・地産地消法に基づく総合化計画の認定を受けた。

しかしながら、6次産業化に取り組むための専門的な知識・技術、手法、情報等に乏しく、スムーズな取り組みができていない。

直売や農産加工に取り組むための専門的な知識・技術、手法の習得等を支援するとともに、個別の6次産業化の取り組みや自然豊かな屋久島の恵み（屋久島の農林水産物・加工品）の販売を拡大するため、地域が一体となって取り組む新たな特産品の開発・商品化やこれらの販売促進に係る支援が必要である。

### 3 活動内容

(1) 農産物に付加価値をつけた商品づくりの支援

ア 6次産業化に向けた基本知識技術の習得支援

6次産業プランナーによるセミナーを6回開催 (表1)

(ワークショップ、ターゲット・コンセプトの設定、マーケティング調査など) (表1)

屋久島自然の恵み商品化チャレンジ事業			
6次産業化セミナー(H27試作などものづくりを始める前に商品の基本設計(課題整理、マーケット調査(島内、島外)、コンセプト、ターゲットの設定)が出来る。			
年月	活動内容	開催場所	参加人数
7月30日(木) 13:30~ 14:20	【協議会総会】 ・事業計画検討他	屋久島町役場安房支所大会議室	関係者 17名
7月30日(木) 14:30~ 15:30	【協議会専門部会】 ・セミナー周知について ・新商品開発企画について他	屋久島町役場安房支所大会議室	関係者 11名
8月	【セミナー生参加者募集】 ・町広報誌等活用 ・各種研修会等での周知 【アイデア募集】		
9月15日(火) 14:00~19:00	【開講式】 ・事業の趣旨説明 ・今後のカリキュラム 【ワークショップ①】 「アイデアを出し合い参加者同士の交流を図る」 講師:脇坂 真史 6次産業化プランナー ①自己紹介 ・氏名 ・住んでいる地区 ・仕事 ・屋久島で一番好きな場所 ・今までで一番記憶に残っているお土産 ② ワールドカフェ 「屋久島の魅力はこれだ！」 アイデアを可視化する。 ③マインドマップ作成	屋久島町営農支援センター	セミナー生 9名 関係者 14名
9月30日(水) 14:30~18:30	【ワークショップ②】 「アイデア整理とチーム作り」 「2025年屋久島新聞発行」 講師:脇坂 真史 6次産業化プランナー *屋久島の今と未来を整理してみる。	屋久島町営農支援センター	セミナー生 7名 関係者 6名
10月13日(火) 14:30~18:30	【講義①】 「ビジネススキームのフレームワーク」 講師:脇坂 真史 6次産業化プランナー ・アイデアワークシートの作成 (個人として)(屋久島全体として) ・グループワーク(3班) ・班ごとにアイデアを整理し、書き出す。。	屋久島町営農支援センター	セミナー生 9名 関係者 6名
11月10日(火) 14:30~18:30	【講義②】 「マーケティングと消費者行動分析」 講師:脇坂 真史 6次産業化プランナー *マーケティングとは、ニーズを把握すること。 「誰に」「何を」「どのように」	屋久島町営農支援センター	セミナー生 9名 関係者 5名



第1回セミナー



「10年後の屋久島・・・」



マーケティングとは



12月15日(火) 14:30~18:00	【講義③】 「アイデアをビジネスにするための学び」 講師:脇坂 真史 6次産業化プランナー ・商品開発に向けての整理とビジネスモデルシート の作成 ・個々で作成したものを交換(情報の共有化)	屋久島町営農支援センター	セミナー生 8名 関係者 3名
1月11日(月) ~12日(火)	【マーケット調査】 ・東京観光でのお土産 (お土産を購入するときのニーズと商品購入) ・地方の加工品や産品が集う東京で、都民はどの ようにして商品を選んでいくか?	東京(23区内)	セミナー生 2名 関係者 1名
1月26日(火) 14:30~18:30	【ワークショップ(4)】 ・講師:脇坂 真史 6次産業化プランナー ・ビジネスモデルのワークショップ ・マーケティング調査発表	屋久島町営農支援センター	セミナー生 8名 関係者 5名
2月	【試作品づくりにチャレンジ】 ・セミナー生が各自あるいはグループで現在取り組 んでいる加工品の改良や新商品の加工品づくりに挑 戦する。		
2月21日(日)	【加工品・試作品の意向調査】 ・島内で開催されるイベントに参加する島外者を対象 に現在販売中もしくは試作中の加工品について意向 調査を実施する。	尾之間	セミナー生 4組 関係者 5名
3月8日(火)	【27年度のまとめ】 ・マーケティング調査発表 ・チームまたは、個別企画の発表	屋久島町営農支援センター	



商品コンセプトの交換



消費者意向調査します!  
(2016 サイクリング屋久島後夜祭  
にて)

#### イ 新商品開発に向けた技術情報提供

「たんかんジュレ」を商品化したいと相談があり、包装資材や充填機について大隅加工技術研究センターに問い合わせ情報収集した。紹介先にそれらの見積もりを依頼した。その包装資材を使って、「ジャム」加工に取り組みたい農家にも呼びかけ、加工品の試作を行った。

### 4 活動の成果

- (1) 6次産業化プランナーによる6回のセミナーにはのべ89名(平均14.8名)が参加し、セミナーを通じて3名が自社の加工品の商品コンセプトやターゲットの設定ができた。  
また、セミナー参加者のうち2名が東京へマーケット調査にいき、個別の6次産業化の取り組みの留意事項や自然な屋久島の恵み(屋久島の農林水産物・加工品)の販売を拡大するため、地域が一体となって取り組む体制作りの必要性が認識された。  
2月には、町内で開催されたイベントの参加者を対象とした消費者意向調査も実施した。(意向調査の結果は右のとおり。)
- (2) 新商品開発に取り組む農水産業者が3名あり、うち2名は合同で研修会を行った。

### 5 今後の課題

- (1) 6次産業化を志向する農家が増えてきており、引き続き基本知識技術の習得を支援するとともに、経営基盤を確立することや経営の中でのリスク低減(加工業者等との連携)も併せて図る。
- (2) 新商品開発に向けた技術情報提供や流通・販売面については、専門家の指導も受けながら

試食アンケート結果																																			
【日時】	平成28年2月21日(日)午後5時~午後7時																																		
【イベント名】	サイクリング屋久島後夜祭																																		
【調査方法】	試食ブースにて試食していただいた後、聞き取り調査																																		
【場所】	尾之間																																		
【調査人数】	69名(男49名 女16名 未記入4名)																																		
◆回答者年代	<table border="1"> <tr> <th>10代</th> <th>20代</th> <th>30代</th> <th>40代</th> <th>50代</th> <th>60代</th> <th>70代</th> </tr> <tr> <td>0</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>18</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>1</td> </tr> </table> (人)	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	0	14	17	18	6	7	1																				
10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代																													
0	14	17	18	6	7	1																													
◆居住地	<table border="1"> <tr> <th>鹿児島</th> <th>福岡</th> <th>他九州</th> <th>東京</th> <th>神奈川</th> <th>他関東</th> <th>大阪</th> <th>国外</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>20</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>14</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> </table> (人)	鹿児島	福岡	他九州	東京	神奈川	他関東	大阪	国外	その他	20	4	1	14	5	4	1	1	6																
鹿児島	福岡	他九州	東京	神奈川	他関東	大阪	国外	その他																											
20	4	1	14	5	4	1	1	6																											
【質問1】	お土産を購入する際に、何を最も重視しますか?																																		
	1位 地元の産物 2位 金額 3位 見た目(包装) 4位 賞味期限 5位 重さ																																		
【質問2】	食べ物お土産で印象に残ったものがありますか?																																		
	ある 40人 ない 9人																																		
	(その理由は?) ・ネーミングにイオンバク ・おいしい ・珍しい ・ここでしか食べられない																																		
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <table border="1"> <tr> <th>年代</th> <th>人数</th> </tr> <tr> <td>10代</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>20代</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>30代</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>40代</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>50代</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>60代</td> <td>7</td> </tr> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <table border="1"> <tr> <th>居住地</th> <th>人数</th> </tr> <tr> <td>鹿児島</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>福岡</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>他九州</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>東京</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>神奈川</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>他関東</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>大阪</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>国外</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>6</td> </tr> </table> </div> </div>	年代	人数	10代	0	20代	14	30代	17	40代	18	50代	6	60代	7	居住地	人数	鹿児島	20	福岡	4	他九州	1	東京	14	神奈川	5	他関東	4	大阪	1	国外	1	その他	6
年代	人数																																		
10代	0																																		
20代	14																																		
30代	17																																		
40代	18																																		
50代	6																																		
60代	7																																		
居住地	人数																																		
鹿児島	20																																		
福岡	4																																		
他九州	1																																		
東京	14																																		
神奈川	5																																		
他関東	4																																		
大阪	1																																		
国外	1																																		
その他	6																																		

支援する。

### 6 農家の声

セミナーに参加して、分かりやすく説明していただき、自分たちが進むべき方向が少し見えてきました。売れる商品づくりの3大キーワード(①「作りたい→買いたい」へ②「一緒に巻き込む」③「目が留まる→伝わる→買う」)を考えながら、商品開発を行いたい。(セミナー参加者/女性)

### 7 担当した普及職員(○はチーフ) ○上福元

## II 実証・展示ほ等成績

### 課題名 ぼんかん優良系統の選抜

#### 1 目的

ぼんかんは屋久島農業の基幹作目であるが、販売価格は低下傾向である。近年、高品質な果樹品種が育成され、各産地で導入が図られており、品目・品種間競争が価格低下の一要因ともなっている。

そのため、町内で栽培されているぼんかんの枝代わりを探索し、品質調査等を通じながら、優良系統を選抜し、競争力あるぼんかんの系統を育成する。

#### 2 実証・展示ほの概要

##### (1) 設置場所及び担当農家

屋久島町尾之間試験園

##### (2) 設置の概要

- ア 対象作物：ぼんかん
- イ 品 種：町内枝代わり
- ウ 作 式：露地
- エ 区の構成：10系統30樹（3樹/系統）
- オ その他：施肥，管理は試験園慣行

#### 3 活動経過および調査結果

##### (1) 活動経過

- ・平成20年11月26日，農業開発総合センター果樹部と連携し，町内において枝代わり探索し，該当枝にラベルした。探索の視点は，着色，食味とした。
- ・平成21年2月に，ラベルした枝を採取し，果樹部で苗木を作成した。
- ・作成した苗木30本（3樹/10系統）を，平成21年11月24日に町試験園に仮植，平成22年4月に定植した。
- ・シカ害による欠株が5株あり。

##### (2) 調査結果

- ・今回調査した8系統の中では，1以外は，糖度11度以上で果実内容は優れていた。
- ・8系統はいずれもす上がりが発生していた。
- ・12月中旬時点の調査では，参考で調査した薩州ぼんかんが優れていた。
- ・KS-15は，浮皮が発生しており，12月中旬収穫では遅いと考えられた。

表1 果実品質

調査日：12月17日

前回判定	今回判定	系統番号	横径	縦径	果径指数	果実重	着色歩合	果色	す上がり	糖度	クエン酸	着果数
×	×	1	74.7	65.2	114.7	163.9	6.0	5.8	1.9	9	0.81	23
◎	△	2	76.1	57.8	131.6	156.0	8.7	6.2	1.5	11	0.87	5
×		3										0
△	△	4	75.7	66.0	114.7	175.4	8.6	8.0	1.5	11	0.83	45
未着果	△	5	62.5	56.4	110.7	112.5	9.9	6.0	1.6	11.8	1.18	17
△	△	8	72.4	60.2	120.3	149.6	9.1	7.3	1.7	11.8	1.04	28
△	△	9-1	73.2	67.7	108.0	163.2	5.2	5.6	1.5	11.2	1.01	5
未着果	△	9-2	73.6	65.3	112.7	169.0	9.1	6.6	1.4	11	0.94	11
×	×	10	79.2	68.7	115.3	191.6	7.5	5.8	1.7	11	0.96	27
参考		KS-15	78.4	63.4	123.8	165.6	9.9	8.6	0.0	11.5	0.92	
		薩州	77.3	60.2	128.3	179.7	9.8	8.0	0.0	11.8	0.9	
		備考	・調査日 12月17日 ・す上がりは無:0, 軽:1, 中:2, 甚:3の4段階で判定 ・果色はオレンジ色系カラーチャートで判定 ・調査果数は3樹合計(NC9は1樹)									

系統番号	園主名	備考
1	永田 洋吉	
2	永田 洋吉	
3	日高 洋一郎	
4	日高 洋一郎	
5	日高 清則	
6	逆瀬川 広之	
8	大山 一	
9-1	鎌田 イチ子	着果なし
9-2	鎌田 イチ子	
10	徳永 快行	

KS-15：大田ぼんかんに放射線を照射して育成した品種。選抜前のKP-2の親



系統番号 1 (高しょう系ぽんかん)

撮影日 12月17日



系統番号 2 (低しょう系ぽんかん)

撮影日 12月17日



系統番号 4 (高しょう系ぽんかん)

撮影日 12月17日



系統番号 5 (高しょう系ぽんかん)

撮影日 12月17日





系統番号 8

(低しょう系ぽんかん)

撮影日 12月17日



系統番号 9-1

(高しょう系ぽんかん)

撮影日 12月17日



系統番号 9-2

(高しょう系ぽんかん)

撮影日 12月17日



系統番号 10

(高しょう系ぽんかん)

撮影日 12月17日



○参 考

KS-15

撮影日 12月17日



薩州ぼんかん

撮影日 12月17日



4 考 察

着色の早い系統を選抜したわけだが、12月中旬収穫では、既存の薩州ぼんかんが優れていた。

5 普及性及び残された課題

- ・調査の継続



## II 実証・展示ほ等成績

### 課題名 「ハーフソイラ」活用による排水対策の検討

#### 1 目的

屋久島のほ場は、重粘土壌が多く、排水不良や土壌水分過多が、生育不良や収量低下の原因の一つと考えられている。また、花崗岩等の礫が多いため、プラウ耕等では下層の礫を表面に上げてしまい、現状では排水対策が行われていない。

そこで、下層の礫等を土壌表面に上げないハーフソイラを活用した排水対策を行い、ばれいしょで課題となっている植付け直後の滞水による萌芽不良の改善を図る。

#### 2 実証・展示ほの概要

##### (1) 設置場所及び担当農家

屋久島町原 丸野 秀策 氏

##### (2) 設置の概要

###### ア 品種名

ばれいしょ：ニシユタカ

###### イ 区の設定等

ハーフソイラ区：ハーフソイラ施工 (20a)

排水不良区：隣接の排水不良のほ場 (20a)

###### ウ その他

定植日：10月28日

#### 3 調査結果等

##### (1) 収量調査

表1 規格別収量

	収量 (kg/10a)	
	ハーフソイラ区	排水不良区
欠株率%	5%	20%
1 芋重 (g)	115.3	132.8
規格外 (20以下)	4	2
規格外2S (20~29)	28	36
S (30~40)	38	21
M (40~100)	561	389
L (100~200)	719	476
2 L (200~350)	789	638
3 L (350~450)	0	151
4 L (450~ )	0	107
合計	2,138	1,821
規格収量	2,106	1,783



ハーフソイラ



ハーフソイラ区 ほ場

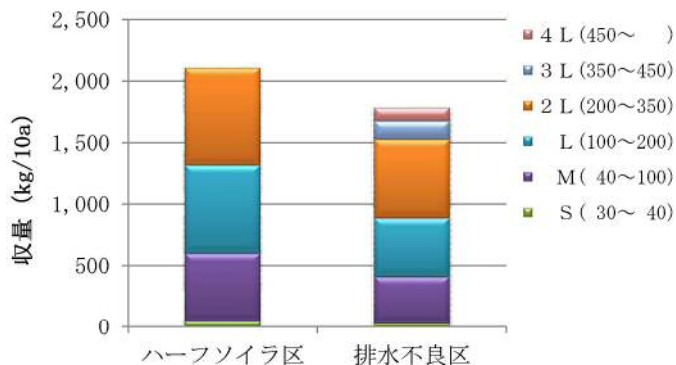


図1. 収量調査結果 (規格外除く)



(2) 収量調査結果を用いた収益性比較

表2. 収益性比較

	ハーフソイラ区	排水不良区
収量 (kg/10a)	2,106	1,783
平均単価 (円/kg)	167	167
売上高 (円)	351,702	297,761
経費 (円)	234,362	234,362
ハーフソイラ利用料 (円)	1,944	—
粗収益 (円)	115,396	63,399

※「ハーフソイラ」は屋久島農業管理センターに導入（平成26年8月導入）  
利用料は10アールあたり1,944円

#### 4 考 察

- (1) 排水不良区では、ばれいしょの萌芽率が悪く、ほ場全体の株数が少ない状況であったため、1芋重は大きかったが、全体収量は低い結果となった。（表1）  
規格外を除いた収量は、ハーフソイラ区で2,106kg/10a、排水不良区で1,783kg/10aであり、ハーフソイラ区の方が高い結果となった。（図1）
- (2) 収量調査結果を用いて、粗収益を比較すると、ハーフソイラ区で115,396円、排水不良区で63,399円であり、ハーフソイラを活用により収益の増加が見込まれる。
- (3) 以上の結果から、「ハーフソイラ」の活用は排水対策として有効であると考えられた。

#### 5 普及性及び残された課題

- (1) ハーフソイラを活用すると、降雨後にほ場から水が引く時間も短くなり、作業性がよくなること、そして、萌芽不良の改善が図られることから普及性があると考えられる。
- (2) 「ハーフソイラ」の特徴は、下層の礫等を土壌表面に上げないことであるが、ほ場によっては、下層の礫が作土層にあがる場合があるので、より効果的な排水対策としての方法を検討していく必要がある。

## II 実証・展示ほ等成績

課題名 炭疽病に対する新規農薬の防除効果

### 1 目的

炭疽病の防除資材で、新規農薬(ナリアWDG)の防除効果を検討した。

### 2 実証・展示ほの概要

(1) 設置場所及び担当農家 屋久島町安房(平野) 日高要人氏

(2) 設置の概要

ア 品種名 おくみどり 1区25a, 三連制

### イ 区の設定等

区名	薬剤名	散布量	希釈倍数	散布日	散布器具
ナリア	ナリアWDG	200 <sup>g</sup> / <sub>10a</sub>	2,000倍	H27.9.14	乗用型防除機
コサイド	コサイド3000	〃	1,000倍	〃	〃
無散布	—	—	—	—	—

注1. 乗用型防除機は、(株)松元機工社製(MCS-10)を用い、エンジン回転数が2,100rpm, 散布圧が1MPaの設定で、200<sup>g</sup>/<sub>10a</sub>相当量散布した。

ウ 散布時の茶芽の生育状況 秋芽1葉期

### エ 調査方法

#### ①防除効果

散布21日後(10/5)に25×50cm枠を用い、各区8ヵ所の発病葉数を見取り調査し、防除率を算出した。

#### ②対象病害虫の発生状況

炭疽病の発生状況は、1m<sup>2</sup>あたり44枚であり少発生であった。

### 3 調査結果等

ナリアWDG2,000倍の炭疽病に対する防除効果は、散布21日後の防除率で84.1%と高く、対照のコサイド区の68.9%と比較して高かった(表1)。

### 4 考察

ナリアWDG2,000倍の炭疽病に対する防除効果は、少発生での調査であるが、対照薬剤と比較して効果が高く、秋芽萌芽～1葉期の防除薬剤として有効であると考えられた。

### 5 普及性及び残された課題

少発生での調査ではあるが、炭疽病の防除効果は、対照薬剤と比較して高かったことから、秋芽生育期の防除薬剤として普及性は高いと考えられる。

## 【結果の具体的データ】

表1 炭疽病の防除効果

区名	発病葉数(枚/m <sup>2</sup> )				防除率	薬害
	I	II	III	平均		
ナリア	8	7	6	7.0	84.1%	—
コサイド	15	12	14	13.7	68.9%	—
無散布	23	59	50	44.0	—	—

注1. 防除率 =  $(1 - \frac{\text{散布区の病葉数}}{\text{無散布区の病葉数}}) \times 100$

## II 実証・展示ほ等成績

**課題名** チャトゲコナジラミの発生状況の把握

### 1 目的

チャトゲコナジラミは、平成24年1月に本県で初めて屋久島町の茶園で発生が確認され、4年が経過した。本虫の被害は、多発すると成虫乱舞による作業性の低下やすす病発生による樹勢低下を引き起こす。また、本虫は、繁殖力が高く、急速に分散するので、早期発見による密度抑制、発生地域拡大防止を図りつつ、既発生園では安定期への早期移行を図る必要がある。そこで、発生状況の把握と既発生園における幼虫密度調査を実施した。

### 2 実証・展示ほの概要

(1) **設置場所及び担当農家** 屋久島町内茶園，屋久島町茶業振興会会員  
定点調査：屋久島町楠川，ハラダ製茶農園

#### (2) 設置の概要

**ア 品種名** あさつゆ，62a(初発園)

#### イ 調査方法

##### ①発生確認調査

越冬世代成虫期に、既発生地域の全茶園と未発生地域の茶園団地ごとに、黄色粘着トラップ(バクスキャン(A4の縦半分サイズ))を1枚ずつ10日程度設置し、誘引された成虫を実体顕微鏡下で計数した。なお、発生が確認された場合、ほ場の位置及び茶園面積も調査した。

##### ②発生量調査及び天敵類調査

幼虫密度については、第四世代の1月18日に、裾部から50葉任意に採取し、実体顕微鏡下で幼虫寄生状況及び寄生蜂の脱出痕及び寄生菌の有無を調査した。

### 3 調査結果等

#### (1) 発生確認調査結果

新たに発生が確認されたほ場は1ほ場，57aであり，累計発生面積は，46ほ場，1,028aであった(表1)。

#### (2) 発生量調査及び天敵類調査

チャトゲコナジラミ発生状況は，寄生葉率46%，1葉あたりの虫数は1.2頭であり，すす病の発生は認められなかった(表2)。

天敵については，シルベストリコバチの発生は確認されていないが，ペシロマイセス属の昆虫寄生性糸状菌と思われる菌の発生が認められ，寄生葉率は32%であった(図1)。

### 4 考察

発生地域は，発生面積が増加しているものの，平成24年に本虫が初めて発見された地域内に収まっている。また，初発生園においては，天敵として有望な菌の発生もあり，安定期へ移行しているものと思われた。

### 5 普及性及び残された課題

チャトゲコナジラミの他地域への拡散防止対策を継続的に取り組む必要がある。

表1 年次別のチャトゲコナジラミ発生面積の推移

調査時期	調査方法	発生ほ場数	発生面積
H25.4月	トラップ	29	677a
H26.4月	〃	45	971a
H27.5月	〃	46	1,028a

表2 年次別のチャトゲコナジラミ幼虫寄生状況の推移

年度	調査日	世代	調査葉数	寄生葉率	虫数/葉	すす病の発生
H25	11月20日	第四世代	50	56%	4.1	無
H26	12月9日	第四世代	50	56%	2.9	有
H27	1月18日	第四世代	50	46%	1.2	無



図1 ペシロマイセス属の昆虫寄生性糸状菌と思われる菌が発生



### Ⅲ 参考資料

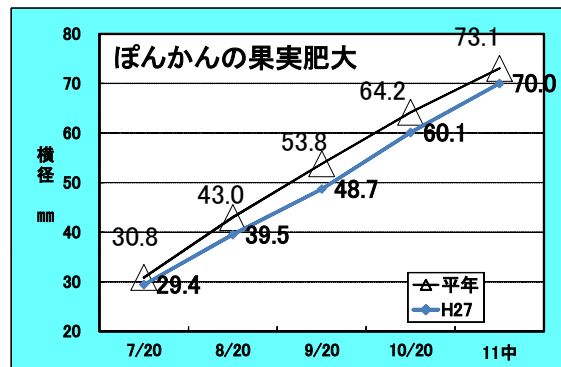
#### 【平成27年の主要作物生育経過】

#### 果 樹

#### 【ぼんかん】

開花は、平年より6日早い4月9日が満開日で、着花量は全体的には多くなかった。  
 果実肥大状況は、調査時から平年より小さく収穫時点でも、小玉傾向でM玉が多くなった。  
 糖度は、9月中旬～11月上旬が小雨傾向であったため、平年より糖度が高かった。  
 6月～7月に降雨が多く、黒点病が多かった。  
 また、収穫期の12月は、カメムシやヤガの被害が発生し、腐れ果が発生した。

地区名	満開日	着花量
永田	4月7日	多
湯泊	4月7日	多
平内	4月14日	少
小島	4月16日	少
尾之間	4月17日	少
原	4月12日	中
高平	4月10日	多
平均	4月11日	少～多
平年	4月17日	



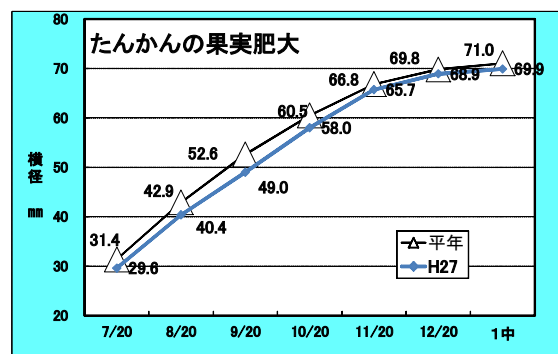
調査日：平成27年11月20日

		糖 度	クエン酸
ぼんかん	平成27年度	10.6	0.96
	平 年	10.1	0.85

#### 【たんかん】

開花は平年より1日早い4月9日が満開日で、着花量は直花が多く有葉花は少ない傾向であった。昨年より着花量は少なかった。  
 果実肥大は、幼果期の長雨による日照不足等により当初から肥大がよくなかったが、暖冬の影響で12月まで肥大が続き、平年とほぼ同様の肥大状況でL玉以上が多くなった。  
 糖度は、ぼんかん同様に糖度は高かったが、着色がやや悪かった。  
 6月～7月に降雨が多く、黒点病が多かった。

地区名	満開日	着花量
永田	4月7日	多
湯泊	4月7日	多
平内	4月7日	多
小島	4月15日	少
尾之間	4月10日	中
原	4月15日	少
麦生	4月5日	極多
高平	4月8日	多
平均	4月9日	少ない
平年	4月10日	



調査日：平成28年1月20日

		糖 度	クエン酸
たんかん	平成27年度	10.8	1.21
	平 年	10.4	0.92

## 茶

一番茶は、3月1～3半旬の気温が平年より低く推移したことから、前年と比較して新芽の生育が遅く、摘採開始が3月29日と前年より4日遅かった。しかし、3月4半旬、4月1半旬の異常高温により、新芽が極端な不揃いとなり、生育速度並びに硬化速度が急激に早まった影響で、収量が前年と比較して4割程度減収した。品質については、摘採期間中に日照不足も重なったものの、芽格による摘採を行い、品質を維持することができた。

二番茶については、4月の気温が高く推移したことから、一番茶摘採後42日後の5月10日(前年-4日)の摘採開始となった。また、三番茶については、二番茶摘採後43日後の6月22日から、四番茶については、三番茶摘採後43日後の8月4日から摘採開始となった。樹勢回復と茶芽生育の不揃い解消を目的に摘採をやや遅らせて実施したが、日照不足等の影響で、特に二・三番茶については収量が少なく、秋芽生育も芽数がやや少ない状況であった。

病害虫の発生状況は、長雨により日照不足であったにも関わらず、病害・虫害ともに多い傾向が見られた。

## 野菜

### 【ばれいしょ】

10月中旬に植付後、平年より気温が約2℃前後高い状態が年明け1月中旬まで続き、さらに11月上旬からは日照時間が平年より短かった。そのような気象条件下でばれいしょの生育は全体的に軟弱徒長の状態であり、12月上旬から疫病の発生がみられ、1月中旬には疫病発生ほ場がさらに多くなった。また、1月24～25日にかけての寒波(雪)の影響により、茎葉の折損、倒伏も重なり、茎葉の痛みがさらに激しい状態となった。出荷量は計画数量545tより少なくなる見込みである。

### 【やまいも】

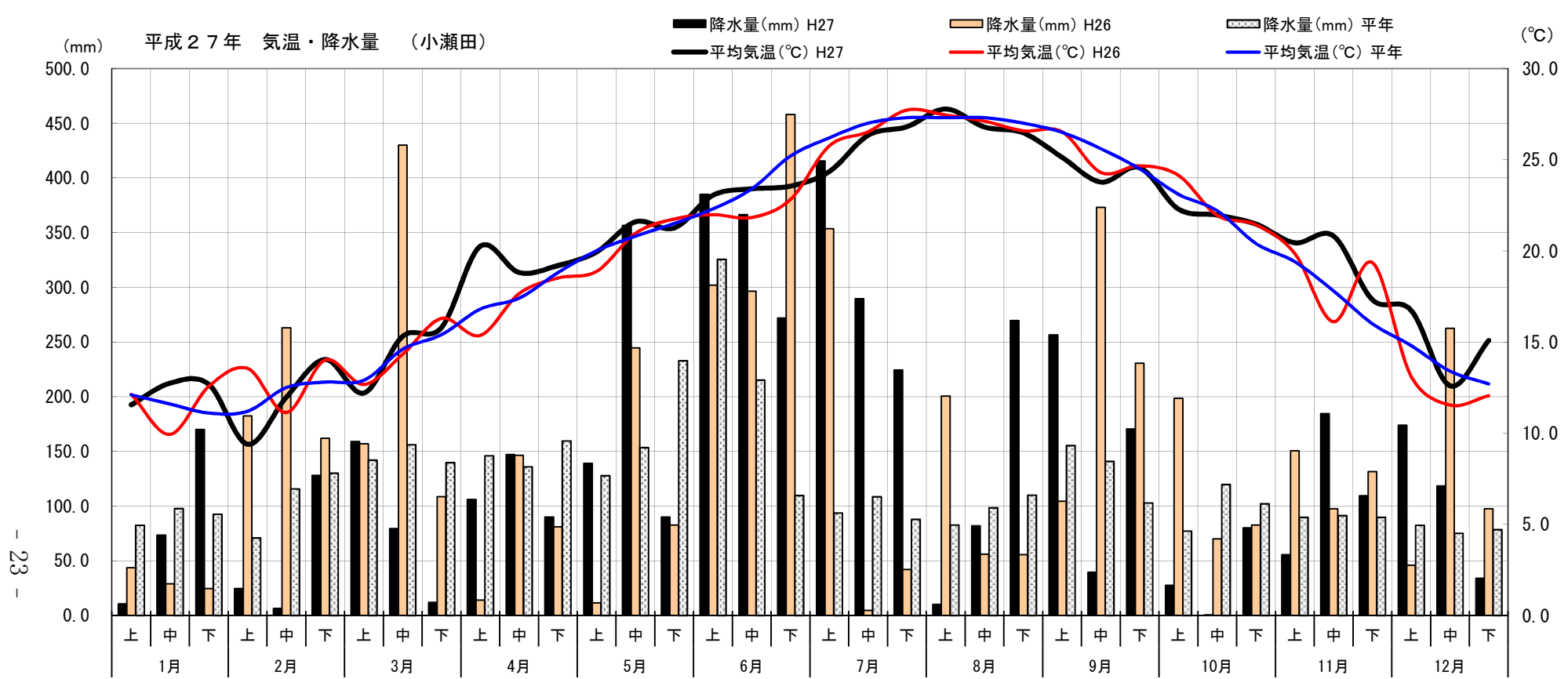
植付時期の4月末から5月上旬にかけて、雨によりほ場の準備が遅れ、全体的に植付が遅れた状況であった。また、梅雨に入った6月以降、降雨量が平年と比較してかなり多い状況であった。また、7月下旬に台風12号、8月下旬に台風14号が襲来したものの、大きな被害もなく、順調な生育であった。例年は屋久島北部が11月下旬から出荷を始めるが、今年度は植付が遅れてしまったこと、そして、12月の気温が平年よりも高かったことから、12月上旬からの出荷開始となった。1月以降、屋久島南部の出荷が始まり、1月24～25日にかけての寒波(雪)の影響が心配されたが、加工面でも問題なく、例年同様出荷できる状況であった。出荷量は計画数量並みの約49tが見込まれる。

### 【さつまいも】

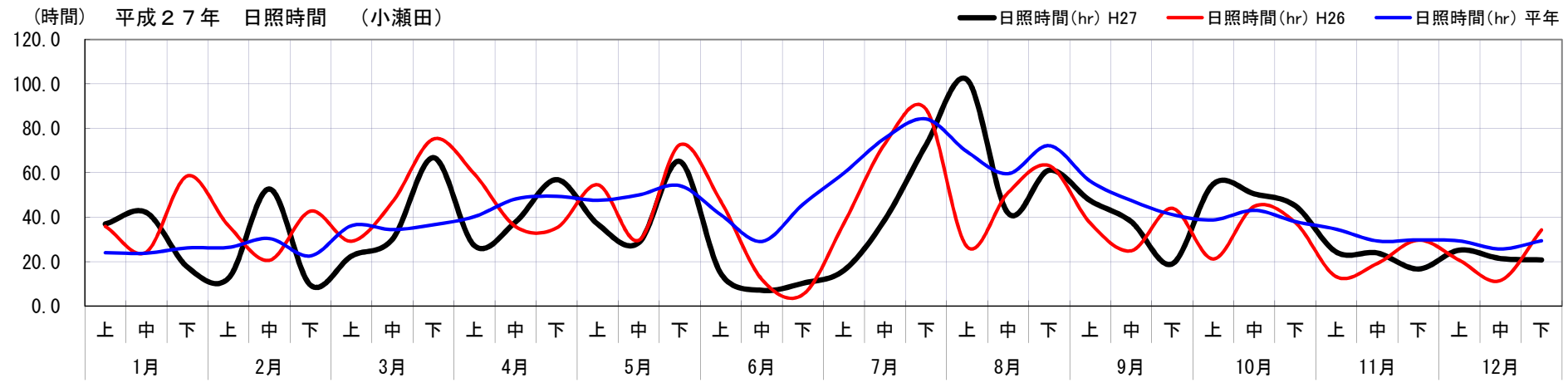
植付時期の天候不順により、ほ場の準備が遅れ、一部、植え付けが遅れた地域もあった。また、梅雨に入った6月以降、降雨量が平年よりもかなり多く、ほ場内への滞水や下葉が黄色く変色するなど、葉の老化するスピードが早まる傾向であった。その後、7月下旬と8月下旬に台風が襲来し、一部のほ場で塩害がみられた。その後、順調な回復がみられたが、気温が高い状況が年明け1月中旬まで続き、芋肥大が例年より進まない状況であり、出荷量も計画数量より少ない状況だった。

### 【実えんどう】

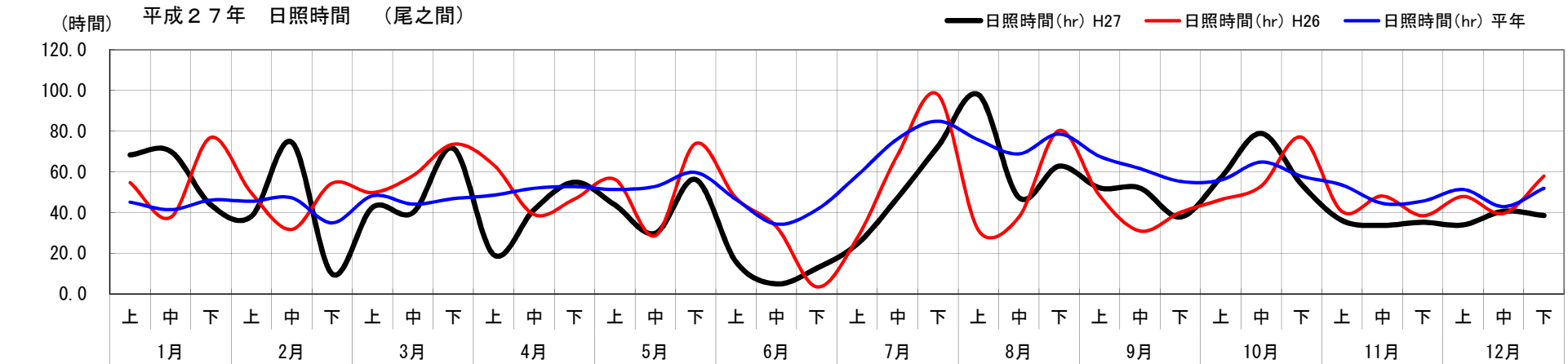
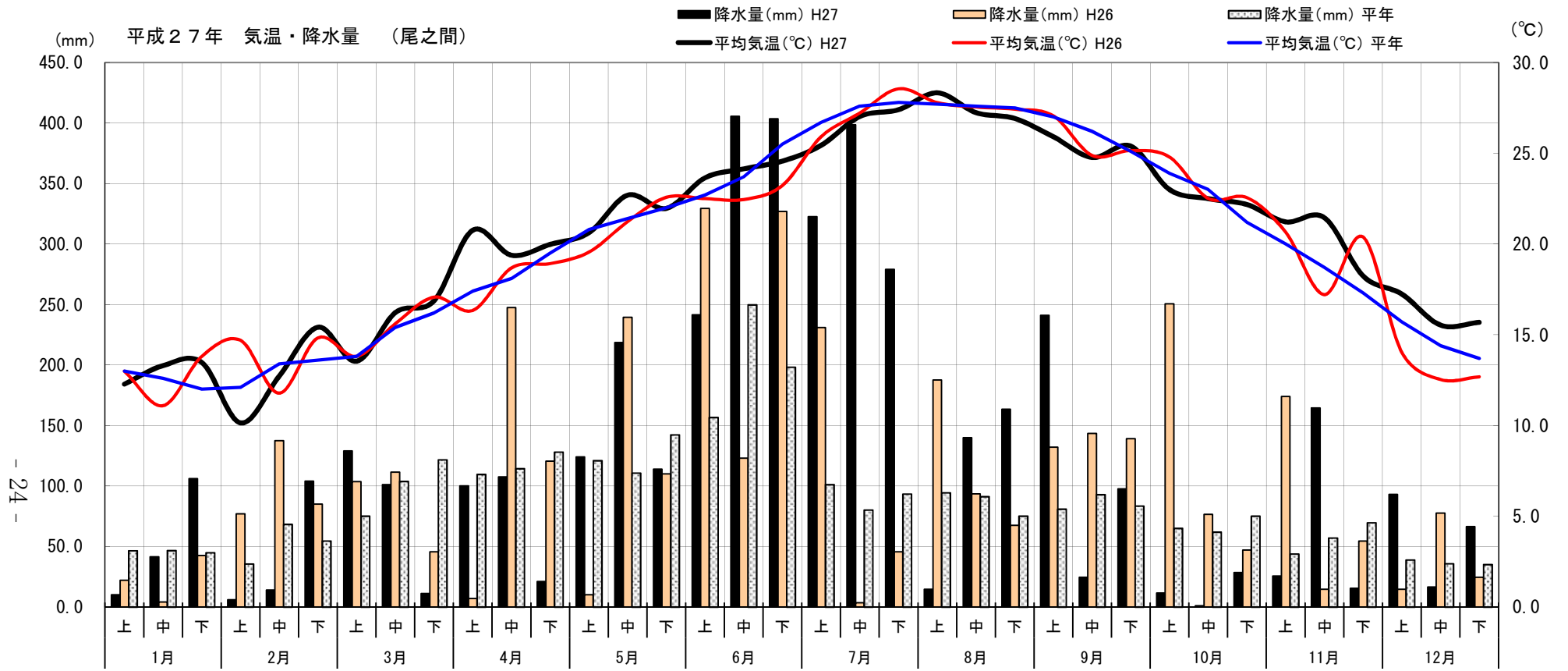
10月上旬から播種が始まったが、10月の降雨量が少なく、発芽揃いが悪い状況であった。また、気温が高い状況が年明け1月中旬まで続き、草勢が弱く、病害(褐紋病、褐斑病)の発生が11月下旬からみられた。今年度は、気温が高い状況下での生育だったため、植物体の耐寒性がなく、1月24～25日にかけての寒波(雪)の影響を受け、霜莢・落莢の発生が多くみられた。出荷量は計画数量29.4tより少なくなる見込みである。



- 23 -







## 気象災害等

### ●平成27年の台風

平成27年の台風の発生数は27個であり、平年の25.6個と比較して多かった。また、九州南部への接近数は4個であり、平年の3.3個と比較して多かった。

#### 【台風12号，通過日：7月26日】

強風(最大瞬間風速:小瀬田，27.3m/s，尾之間:18.5m/s)により，焼酎用甘シヨで潮風害の発生により茎葉の折損，茶で潮風害が見られたものの，収量には影響がなかった。



焼酎用さつまいもの潮風害



茶の潮風害

#### 【台風15号，通過日：8月24～25日】

強風(最大瞬間風速:小瀬田，34.0m/s，尾之間，24.8m/s)により，生育初期のガジュツ，ウコン，やまいも等の茎葉の折損被害が発生し，5%減収した。果実肥大期であったぼんかん，たんかんは，風傷果・落果被害が発生し，15%減収した。また，ビニルハウスについては一部，ビニルの破けが見られた。



ガジュツの茎葉の折損



やまいもの茎葉の折損



●口永良部島新岳噴火関係

口永良部島の新岳が、5月29日に爆発的噴火をした。噴火警戒レベル5への引き上げに伴い全島民に島外への避難指示が発令された。その後、6月18日、19日にも爆発的噴火を観測。口永良部島では、焼酎用さつまいも、ガジュツ等が亜硝酸ガスによる被害、管理作業ができないことや鳥獣害等により減収した。畜産については、子牛等を搬出が実施された。また、本島では、茶が噴火直後に摘採前の茶芽に降灰が確認されたが、長雨等により、洗浄され被害は見られなかった。



焼酎用さつまいもの鳥獣害



二番茶摘採前の降灰の付着

●1月24～25日の寒波(雪)による被害

低温(日最低気温:小瀬田, 1.0℃, 尾之間, 0.6℃(観測史上最低))及び強風(最大瞬間風速:小瀬田, 27.3m/s, 尾之間, 23.0m/s)により、生育期のばれいしょが折損・倒伏被害により20%の減収, 収穫初期の実えんどうが折損及び霜災の発生で5%減収した。



ばれいしょの折損



実えんどうの霜災



茶園における積雪の状況(被害無し)



焼酎用さつまいもの降灰の付着(被害無し)



## ミカンコミバエ種群発生及び防除対策

### ●屋久島におけるミカンコミバエ種群の誘殺状況（植物防疫所HPより抜粋）

平成28年3月14日現在  
(単位:匹)

		9/1 ~9/7	9/8 ~9/14	9/15 ~9/21	9/22 ~9/28	9/29 ~10/5	10/6 ~10/12	10/13 ~10/19	10/20 ~10/26	10/27 ~11/2	11/3 ~11/9	11/10 ~11/16	11/17 ~11/23	11/24 ~11/30	12/1 ~12/7	12/8 ~12/14	12/15 ~12/21	12/22 ~12/28	
鹿児島県	熊毛郡 屋久島町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	173	5	2	0	3	
		12/29 ~1/4	1/5 ~1/11	1/12 ~1/18	1/19 ~1/25	1/26 ~2/1	2/2 ~2/8	2/9 ~2/15	2/16 ~2/22	2/23 ~2/29	3/1 ~3/7	3/8 ~3/14	合計						
鹿児島県	熊毛郡 屋久島町	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	213						

### ●ミカンコミバエ種群の防除対策

#### (1) 発生状況調査

- ・トラップ設置による発生状況調査（トラップ75カ所：2月22日時点）



トラップ設置



ミカンコミバエ雄成虫

#### (2) 寄主果実調査及び寄主果実除去

- ・ミカンコミバエ種群の好適寄主果実（キンカン、グアバ、ぼんかん、たんかんなど）を採集後、5～6日保管後、切開調査
- ・来春の羽化数を削減するため、家庭果樹の自主的除去の徹底



寄主果実調査



寄主果実除去



(3) 雄成虫の駆除

- ・誘引剤及び殺虫剤を染みこませたテックス板の設置  
第1回目：11,439枚（11月25日～12月7日設置済）  
第2回目：13,379枚（1月9日～2月9日設置済）  
第3回目：11,250枚（2月11日～3月8日設置済）  
第4回目：7,950枚（3月11日～3月17日設置中）



テックス板準備



テックス板設置方法説明



班体制による防除作業



テックス板設置

(4) 雌成虫の駆除

- ・寄主果実への産卵を防止するために、ベイト剤（成虫の殺虫）の散布



地図を用いて散布場所確認



ベイト剤散布

(5) ほ場等の衛生管理

- ・かんきつ類の生産者に対し、落果、収穫漏れ果実の除去等の協力呼びかけ（屋久島町防災無線、町報、フルーツ情報誌、普及だより等活用）
- ・放任園対策については、町を通じて、地元住民の協力を得て、放任園所有者の特定し、果実除去、伐倒等の防除活動の実施

●作業経過

日時	作業	作業内容	班編制	
11月20日	金	トラップ設置	永田、尾之間にトラップ2基設置	屋久島事務所 2名
11月21日	土	トラップ設置、 トラップ調査	屋久島地区外周、安房誘殺地点周辺トラップ33カ所設置	町1、植防1、屋久島事務所2、食推1 合計5名
11月22日	日	トラップ調査	全トラップ33カ所調査	町2、植防1、屋久島事務所2、食推1 合計6名
11月23日	月	トラップ増設	トラップ調査、トラップ17カ所増設	町1、植防2、屋久島事務所1 合計4名
11月24日	火	トラップ移設	安房設置21基の内8基を選定し 湯泊4カ所に移設	小瀬田～永田 安房～栗生 1班2名 1班3名
11月25日	水	トラップ調査	永田・南部地区トラップを調査 栗生4カ所に移設	小瀬田～永田 安房～栗生 1班2名 1班3名
		テックス板準備・設置	テックス板(1,000枚)に針金を通し10本束にする(設置準備) 栗生、湯泊地区に350枚設置(栗生90枚、湯泊260枚)	栗生 湯泊 1班3名 1班4名
11月26日	木	テックス板準備・設置	テックス板に針金を通し10本束にする(設置準備) 栗生に705枚設置、中間30枚設置	町4、JA6、植防4、熊毛支庁1、 屋久島事務所2 合計17名
		寄主果実採集	栗生：誘殺地点半径2kmの寄主果実の採集	
11月27日	金	トラップ調査	全トラップ68カ所 調査	屋久島事務所2名
		テックス板設置 寄主果実採集	永田：1、242枚設置 永田：誘殺地点半径2kmの寄主果実の採集	町25、植防6、熊毛支庁1、屋久島事務所3 合計35名
11月28日	土	トラップ調査	全トラップ68カ所 調査	屋久島事務所2名
		テックス板設置 寄主果実採集	湯泊：422枚設置、中間：352枚設置 平内：714枚設置、小島：273枚設置 湯泊、中間地区誘殺地点半径2kmの寄主果実の採集	町16、JA11、植防6、熊毛支庁1、 防除所1、屋久島事務所11 合計46名 町16、JA11、植防6、熊毛支庁1、防除所1、屋久島事務所11 合計46名
11月29日	日	テックス板設置	尾之間：560枚設置、原：544枚設置、 麦生：606枚設置、高平：300枚設置 平野：496枚設置、春牧：635枚設置 安房：422枚設置、松峯：338枚設置 永久保：285枚設置、船行：249枚設置	町30、JA12、農家40、植防6、 熊毛支庁1、防除所1、屋久島事務所11 合計101名
		トラップ調査	全トラップ68カ所 調査	屋久島事務所2名
11月30日	月	テックス板設置	西部林道：160枚設置、吉田：50枚設置 一湊：238枚設置、志戸子：160枚設置 宮之浦：622枚設置、楠川：280枚設置 榑川：227枚設置、小瀬田：285枚設置 長峰：554枚設置	町15、植防6、防除所2、屋久島事務所13 合計36名
		トラップ調査	全トラップ68カ所 調査	屋久島事務所2名
12月1日	火	果実切開調査	永田：誘殺地点半径2kmの寄主果実の切開調査	植防4名
		寄主果実採集	安房：誘殺地点半径2kmの寄主果実の採集	町5、植防4、防除所1、屋久島事務所4
12月2日	水	テックス板設置	口永良部島：100枚設置	屋久島事務所2名
		トラップ調査	全トラップ68カ所 調査	屋久島事務所2名
12月2日	水	寄主果実除去	永田地区の誘殺地点半径1kmの寄主果実除去	町30、JA6、植防6、防除所1、屋久島事務所12、経済連9、食推1 合計65名
		トラップ調査	全トラップ68カ所 調査	屋久島事務所2名
12月3日	木	寄主果実除去	栗生、中間地区の誘殺地点半径1kmの寄主果実除去	町25、JA5、植防3、防除所1、屋久島事務所12、経済連10、食推1 合計57名
		トラップ調査	全トラップ68カ所 調査	屋久島事務所2名
12月4日	金	ベイト剤散布	永田：寄主果実除去後、ベイト剤散布	町30、JA6、植防6、防除所1、屋久島事務所12、経済連9、食推1 合計65名
		トラップ調査	全トラップ68カ所 調査	屋久島事務所2名
12月6日	日	寄主果実除去	栗生、中間：寄主果実除去後、ベイト剤散布	町25、JA5、植防3、防除所1、屋久島事務所12、経済連10、食推1 合計57名
		果実切開調査	湯泊：誘殺地点半径2kmの寄主果実の切開調査	植防3名
12月7日	月	テックス板増設	栗生地区へのテックス板増設：100枚設置	町3名
		トラップ調査	全トラップ68カ所 調査	屋久島事務所2名
12月8日	火	ベイト剤散布	湯泊集落内ベイト剤散布	町6、植防4、防除所1、屋久島事務所5 合計16名
		トラップ調査	全トラップ68カ所 調査	屋久島事務所2名
12月9日	水	寄主果実除去	湯泊集落内へのテックス板増設：100枚設置	町6、植防4、防除所1、屋久島事務所5 合計16名
		トラップ調査	全トラップ68カ所 調査	屋久島事務所2名
12月10日	木	寄主果実除去	口永良部島1カ所トラップ設置	町1名
		寄主果実除去	湯泊：寄主植物除去	町4、植防2、屋久島事務所2 合計8名
12月11日	金	寄主果実除去	湯泊：寄主植物除去	町4、植防4、防除所1、屋久島事務所2 合計11名
		トラップ調査	全トラップ68カ所 調査	屋久島事務所2名
12月12日	土	寄主果実除去	永田：寄主植物除去(22地点)	町4、植防4、防除所1、屋久島事務所5 合計14名
		寄主果実除去	永田(13地点)、栗生(13地点)：寄主植物除去、ベイト剤散布	町6、植防2、防除所1、屋久島事務所4 合計13名
12月13日	日	トラップ調査	全トラップ68カ所調査 永田移設(20→19)、深川、楠川、榑川、平内に各1新設 全トラップ68カ所→71カ所	植防1、屋久島事務所1 合計2名
		寄主果実除去	栗生(3地点)、湯泊(3地点)、中間(10地点)：寄主植物除去	町6、植防4、防除所1、屋久島事務所5 合計16名
12月14日	月	果実調査	安房地区誘殺地点半径2kmの寄主果実の採集	町6、植防4、防除所1、屋久島事務所4 合計15名
		トラップ調査	全トラップ71カ所 調査 堆肥センター2カ所に各1増設(71→73)	植防1、屋久島事務所1 合計2名
12月15日	火	トラップ調査	全トラップ73カ所調査	植防1、屋久島事務所1 合計2名
12月16日	水	トラップ調査	全トラップ73カ所調査	植防1、屋久島事務所1 合計2名
12月17日	木	トラップ調査	全トラップ73カ所調査	植防1、屋久島事務所1 合計2名
12月18日	金	トラップ調査	全トラップ73カ所調査	植防1、屋久島事務所1 合計2名
12月19日	土	果実調査	原、尾之間、麦生、一湊地区誘殺地点半径2kmの寄主果実の採集	町30、植防5、防除所3、屋久島事務所27 合計65名



12月21日	月	トラップ調査	全トラップ73カ所調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
12月23日	水	トラップ調査	全トラップ73カ所調査	植防2名
12月24日	木	果実調査(切開)	原, 尾之間, 麦生, 一湊地区の果実切開調査	植防5名
12月25日	金	トラップ調査	全トラップ73カ所 調査 安房(13→11)から中間に2基移設 永田ベイト剤散布, 選果場モニタリング	植防3, 屋久島事務所1 合計4名
12月28日	月	トラップ調査	全トラップ73カ所調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
1月4日	月	トラップ調査	全トラップ73カ所調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
1月6日	水	トラップ調査	全トラップ73カ所調査	植防2, 屋久島事務所1, 普及情報課1 合計4名
1月8日	金	トラップ調査	全トラップ73カ所調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
		ベイト剤散布	永田, 栗生 誘殺トラップ周辺	植防2名
1月9日	土	テックス板設置	高平350枚, 平内750枚, 宮之浦650枚, 春牧650枚	植防2, 町4, 集落受託者22 合計28名
1月10日	日	テックス板設置	永久保300枚, 栗生900枚, 原650枚	町3, 集落受託者24 合計27名
1月11日	月	テックス板設置	永田1, 250枚, 安房450枚	植防2, 屋久島事務所1, 町3, 集落受託者54 合計60名
		トラップ調査	全トラップ73カ所調査	植防1名
1月12日	火	テックス板設置	麦生650枚, 中間520枚, 湯泊900枚, 西部林道200枚	植防4, 屋久島事務所1, 防除所2, 町3, 集落受託33 合計43名
1月13日	水	テックス板設置	一湊300枚, 志戸子200枚, 松峯400枚, 小島600枚, 平野500枚	植防6, 町7, 集落受託29, 防除所2 合計44名
		トラップ調査	全トラップ73カ所調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
1月14日	木	テックス板設置	楠川300枚, 楯川300枚, 船行300枚, 宮之浦増設59枚	植防6, 防除所2, 町4, 集落受託7 合計19名
1月15日	金	トラップ調査	全トラップ73カ所調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
1月16日	土	テックス板設置	小瀬田300枚, 長峰600枚	町2, 集落受託7 合計9名
1月17日	日	テックス板設置	吉田150枚	町1, 集落受託2 合計3名
1月18日	月	トラップ調査	全トラップ73カ所調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
1月20日	水	トラップ調査	全トラップ73カ所調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
1月21日	木	テックス板設置	尾之間 750枚	町1, 集落受託22 合計23名
1月22日	金	トラップ調査	全トラップ73カ所調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
1月27日	水	トラップ調査	全トラップ73カ所調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
1月29日	金	トラップ調査	全トラップ73カ所調査 永田7→永田21へ移設 西部林道2カ所に増設	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
2月1日	月	トラップ調査	全トラップ75カ所調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
2月4日	木	トラップ調査	全トラップ75カ所調査	植防2, 屋久島事務所1 合計3名
2月8日	月	トラップ調査	全トラップ75カ所調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
2月9日	火	ベイト剤散布	永田地区廃園周辺 5km四方	植防4, 屋久島事務所3, 防除所1, JA2, 町5, 集落受託4 合計19名
		テックス板設置	永田地区廃園 テックス板300枚設置	植防2, 屋久島事務所2, 防除所1, 町3 合計8名
		ベイト剤散布	永田地区廃園 ベイト剤散布	植防2, 屋久島事務所1, 町2 合計5名
		寄主果実除去	永田地区廃園果実除去(ぼんかん)	植防4, 屋久島事務所3, 防除所1, 町5 合計13名
2月11日	木	テックス板設置	宮之浦650枚	町1, 集落受託8 合計9名
		トラップ調査	全トラップ75カ所 調査	植防2名
2月12日	金	テックス板設置	長峰500枚, 中間500枚	町2, 集落受託13 合計15名
2月13日	土	テックス板設置	高平350枚, 原650枚	植防3, 町2, 集落受託16 合計21名
2月14日	日	テックス板設置	栗生900枚, 春牧650枚, 松峯400枚	植防3, 町3, 集落受託27 合計33名
2月15日	月	テックス板設置	湯泊900枚, 麦生650枚, 安房450枚, 楯川300枚	植防2, 町4, 集落受託24 合計30名
		トラップ調査	全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
2月17日	水	ベイト剤散布	永田地区廃園周辺 5km四方	植防3, 屋久島事務所4, JA2, 町6, 集落受託4 合計19名
		テックス板設置	西部林道200枚, 船行300枚, 一湊300枚,	町2, 集落受託12, 屋久島事務所2名 合計16名
		寄主果実除去	永田地区廃園果実除去(ぼんかん)	植防3, 屋久島事務所2, 町6 合計11名
2月20日	土	テックス板設置	永田1, 250枚	町2, 集落受託37 合計39名
2月21日	日	テックス板設置	尾之間750枚, 永久保300枚	町2, 集落受託29 合計31名
2月22日	月	テックス板設置	志戸子200枚, 小瀬田300枚	町2, 集落受託6 合計8名
		トラップ調査	全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
2月24日	水	テックス板設置	楠川300枚	町2, 集落受託1 合計3名
2月25日	木	トラップ調査	全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
		テックス板設置	吉田200枚	町2, 集落受託1 合計3名
2月29日	月	トラップ調査	全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
3月1日	火	ベイト剤散布	栗生, 中間地区	植防4, 屋久島事務所4, JA2, 町20, 集落受託5 合計35名
		ベイト剤散布	湯泊地区(一部実施)	植防4, 屋久島事務所4, 町20 合計28名
3月2日	水	ベイト剤散布	湯泊地区(一部実施), 中間(大久保線)	植防4, 屋久島事務所3, 町16 合計23名
3月3日	木	トラップ調査	全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
3月7日	月	トラップ調査	全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
		テックス板設置	口永良部島100枚	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
3月8日	火	寄主果実調査	寄主果実採集(一湊, 尾之間地区)	植防3, 屋久島事務所4, 防除所1, 町13 合計21名
		寄主果実調査	寄主果実採集(麦生, 原地区)	植防3, 屋久島事務所4, 防除所1, 町12 合計20名
3月10日	木	トラップ調査	全トラップ75カ所 調査	植防1, 屋久島事務所1 合計2名
3月11日	金	テックス板設置	吉田200枚	町2, 集落受託1 合計3名

## 【ミニ情報でつづるこの1年】

4 月



### ＜ぼんかん、たんかん開花早まる＞

3月中旬～4月上旬は平年より気温が上昇。特に4月上旬の平均気温は、20℃を越え平年より3.5℃ほど高くなった。そのためぼんかんは、平年より6日早い4月11日が満開となった。着花量は全体的に少～中の状況。前年の台風の影響で、弱っている樹は奇形花が多く、今後の生理落果が心配される。たんかんは、平年より1日早い4月9日が満開となった。着花量は全体的にばらついており、昨年より少ない傾向である。ぼんかん同様今年の台風の影響で、今後の生理落果が心配される。

### ＜新しい肉用牛放牧経営の可能性を検討！＞

3月26～27日、屋久島町口永良部島において、肉用牛経営への新規参入可能性調査について検討した。「島にある町営牧場を利用し、放牧主体で飼養管理すること」、「子牛は舎飼いするなどして適切に管理すること」などをとりまとめた。

今後、新規参入者との検討を重ね、口永良部に適した技術、経営方法を支援する計画である。

### ＜湯泊集落いけんかすっ会 今年度の活動を検討！＞

4月16日、湯泊集落いけんかすっ会の今年度最初の定例会が開催された。会員11名の出席があり、焼酎用さつまいもの作付計画や共同作業の内容について検討した。また、水土里サークル活動について27年度から新規に取り組む方向で話し合われた。ほかに農地を有効活用する方法等についても話題となった。今後も、農地の維持管理や共同作業等のための話し合い活動を支援していく。



### ＜一番茶の生育概況＞

走り新茶産地の拡大を目指す屋久島の一番茶が3月29日からスタートした。本年は、3月上旬の気温が平年より低く推移したことから、新芽の生育が遅く、摘採開始が前年と比較して4日遅かった。また、前年夏期～秋期の日照不足等の影響により、芽数が少なく、生葉収量が少なかったものの、品質が良く、味・香りともに新茶らしい製品が多く生産され、県茶市場の評価は高かった。今後も、継続して高品質茶生産に取り組んでいく。

5 月



### ＜26年度産 屋久島地区 ばれいしょ・実えんどうの出荷実績良好！！＞

26年度産は、10月に2週連続で襲来した台風の影響でばれいしょ・実えんどうともに作付けが遅れたが、出荷量は、ばれいしょ521t、実えんどう26.6tであり、計画どおりの出荷であった。今後、農業普及課では、排水対策や実えんどう新品種「まめこぞう」の地域への普及を図りながら、さらなる収量向上へ向けて支援していく。

### ＜屋久島から最優秀賞を含む5点入賞！～一番茶製茶共進会・互評会の開催～＞

5月7日、中種子町中央公民館で熊毛地区製茶共進会が開催され、屋久島から出品した11点の荒茶は、いずれも品質が高く評価され、最優秀賞を始め5点入賞した。翌5月8日には屋久島事務所では一番茶互評会が開催され、同町茶業振興会会員、関係機関等計34名が参加した。生産者が持参した一番茶26点を4名の審査員が一点ずつ評価し、生産・製造技術の改善点等について指導した。今後も走り新茶産地として、高品質茶を継続して生産できるように支援していく。



### <たんかんは台風の影響で減収>

J A種子屋久屋久島支所の26年度産たんかんは、共販量362.3 t（前年対比63%）、共販額126.5百万円（前年対比69%）、糖度10.8（前年度10.6）、クエン酸1.17（前年0.66）であった。26年度産は、10月の台風襲来以降果実肥大が思ったより進まず、M玉以下の割合が56%（前年33%）と小玉傾向となった。防風林が整備されている樹園地でも自然の猛威を感じた年となった。

### <「屋久島町ふるさと産業祭り」を新たな視点でデザイン！！>

4月26日に開催された町産業祭りは、町民交流の場、産業活性化の場、参加者が楽しみながら、ふるさとの物、人、心を改めて発見する場をめざしている。農業普及課は、生活研究グループの出店・PRを中心に、新たにパネルによる農村整備事業のPR、捕獲ヤクシカ肉の焼き肉出店提案、屋久島古民謡のBGM提供等を行った。来場者には町民を含め観光客も多く、鹿肉の試食・普及、畑かん整備の理解促進の機会を演出できた。ある人は唄を懐かしく聴き、祭りのスタイルに一石を投じる形となった。

6月



### <視点！ここが変わる「屋久島鈴岳地区畑地帯総合整備事業(担い手育成型)」>

農村整備係が16年度から進めてきた畑総事業は、26年度畑かんが完了、27年度当初計画した畑総事業全体は完了の予定である。尾之間、小島、平内、湯泊地区の畑総推進委員会では施設整備の改修状況説明及び要望を確認した。本年度は畑総事業計画を見直し、29年度に鳥獣害防止柵の設置施工開始をめざす。地域の担い手農家の要望に応えるものであり、引き続き農業普及係・農村整備係が連携した担い手育成活動として展開していく計画である。

### <複式簿記記帳を学び、経営状態の実際を知ろう>

6月15～19日の5日間、27年度パソコン簿記初級研修が開催され、受講希望者6名が参加した。プロジェクターでパソコン画面を投影しながら、わかりやすい研修を心がけた。今年は例年と比較して受講者が多く、休憩時間も惜しみながら、自分の簿記情報の設定と日常記帳入力を熱心に取り組んでいた。今後、関係機関と連携して決算まで取り組めるよう誘導する計画である。

### <屋久島の排水対策に「ハーフソイラ」登場！>

5月23日、JA種子屋久団地野菜部会を対象に排水対策検討会を開催した。屋久島は、重粘土壌で排水不良の土壌が多く、また、下層には花崗岩等の礫が多い。そこで、下層土を表層に上げずに、心土破碎を行える機械「ハーフソイラ」の施工実演をし、相互検討を行った。実際の施工状況を見た生産者からは、是非、次年度の秋作で使ってみたいという意見があり、地域の農業管理センターでは機械導入を検討することとなった。今後、農林普及課では、排水対策効果の確認を行い、作物の生産性が上がるよう支援していきたい。



### <屋久島つわぶき会活動始動！>

女性農業経営士やホームリーダー等で組織する屋久島つわぶき会の総会が6月16日に屋久島事務所会議室にて開催された。正会員6名・賛助会員6名のうち8名が参加し、従来どおりの若手女性農業者との研修会や担い手女性の集いのほか、新たな活動として、6次化産業にむけたセミナー等へ積極的に参加すること等を検討し承認した。計画が実行できるよう支援していきたい。

7月



### <屋久島野菜部会、女性の力をバネに！！>

7月15日、第37回屋久島地野菜部会通常総会が屋久島町営農支援センターで開催され、会員を含め23名が参加した。26年度は、10月に台風襲来があり、植付時期が遅れたが、ばれいしょ・実えんどうともに計画どおりの出荷であった。27年度からは、新たに女性部会を立ち上げ、部会活動がさらに活発になるよう取り組んでいくことが決議された。農業普及係では、今後も収量向上へ向けて支援していく。

### <屋久島の認定農業者、経営発展の手法を学ぶ>

7月9日、認定農業者連絡協議会総会後の研修会で、日本政策金融公庫資金の紹介と使い方、法人化のイメージについての研修があり、認定農業者40名が参加した。アンケートを行った結果、回収率は58%と低かったものの、資金利用に対する関心が52%と高かった。農業普及係としては研修会の企画立案、経営発展意識の把握を行い、今後の認定農業者組織の育成と個別指導に活かす計画である。

### <農作業事故を起こさないために再点検！>

7月15日、第36回屋久島地野菜部会通常総会が屋久島町営農支援センターで開催され、会員を含め17名が参加した。事業実績及び計画検討を行った後、農作業事故防止に関する研修会を行った。過去の農作業事故の事例を使い、事故を起こさないための対応策について説明した。今後も、農作業死亡事故ゼロを目指して、農作業事故防止啓発活動を行っていく。

### <屋久島産品の商品開発、販路拡大(地域振興推進事業の取組その1)>

農林普及課では地域活性化に向けて「屋久島自然の恵み販売拡大事業（地域振興推進事業）」を活用して、屋久島産品の商品開発や販路拡大に取り組んでいる。26～27年度には林務係が間伐材(屋久島地杉)について、林野庁、森林組合、事業体及び(株)松島木材センター（上天草市）等との意見交換を踏まえ、共同で加工センターを整備し、屋久島地杉製品の全国販売を進めていくこととした。なお、今年度は農業普及係が同事業を活用し農林水産物の6次産業化に向け支援していく。

### <6次産業化に取り組む農業者等を支援します！（地域振興事業の取組その2）>

6次産業化に取り組む農業者等を対象に、県の地域振興事業を活用し町が事務局となり、①自然豊かな屋久島の恵み(農林水産物・加工品)を活用した新たな商品の企画・開発、販売、②製造、販売を拡大するためのネットワークの構築、を目的にセミナーや商品化の検討を計画している。また、女性農業次世代リーダー育成塾にも昨年度に引き続き1名の女性農業者が参加しており、農業普及係では得られた情報等をセミナーに反映できるよう支援していきたい。



### <新たな仲間を歓迎！平成27年度新規就農者励ましの会を開催>

7月9日、屋久島町営農支援センターで新規就農励ましの会を開催し、指導農業士、青年農業者、女性農業経営士、認定農業者、関係者51名が出席して、新規就農者の門出を祝った。本年度の対象者は1名で、「分からないことがたくさんあるが、頑張っって良いお茶を作りたい」等の抱負が語られた。今後、関係者一体となって、生産技術、経営面等の早期確立に向けた支援を行う。



8月



### <実えんどう新品種「まめこぞう」で増収を目指そう！>

8月11日、JA種子屋久・屋久団地野菜部会の実えんどう栽培者を対象に作付け前協議会が町営農支援センターで開催された。27年度産は生産者が昨年より1名増加し、栽培面積2.1haで、そのうち1haに新品種「まめこぞう」が作付けされる計画である。過去2か年の実証試験結果から「まめこぞう」が慣行品種「ミナミグリーン」より収量が高く、生産者から好評価だったことから、新品種が地域に普及するよう支援していく。

### <屋久島地区青年農業者会議の開催>

8月11日、町営農支援センターで屋久島地区青年農業者会議を開催し、4Hクラブ員、指導農業士を含め22名が参加した。6名の農業青年が取り組んだプロジェクト活動の成果を発表し、今後の展開等について活発に議論された。青年達は、自分の取組や経営を見直す良い機会となり、有意義な会議であったと思われた。今後も、プロジェクト活動をとおして農業青年の育成に努めていく。



### <技術を一層高め、健康な屋久島子牛づくりに励もう！>

8月3日、町営農支援センターにおいて、第38回屋久島町和牛振興会総会が開催され、生産者15名が参加した。総会では、平均分娩間隔355日の生産者が表彰されるなど、高い技術の維持啓発がなされた。農林普及課から、好況の中で予防による子牛疾病の減少を考えるため、牛舎環境改善の取組について講話をした。今後も個々の経営状況を検討したうえで、健康な屋久島子牛づくりを支援する計画である。

9月



### <屋久島の和牛育成技術を競い合う>

9月2日、屋久島町営旭牧場において、和牛振興会主催により屋久島町和牛共進会が開催された。1～3部の育成牛17頭すべてが自家保留牛で、父が「安福久」であった。審査してから振興会員同士が育成状況や改良度合いなどを確認し合った。各部上位2頭の中から3頭を選定し、9月9日の熊毛郡畜産共進会に出場する。

### <成功した人の事例を学ぶ！屋久島農業を語る会を開催>

9月9日、営農支援センターにおいて、屋久島農業経営者クラブと共催し、農家23名を含む33名が参

加して、屋久島農業を語る会を開催した。講師に県農業経営者クラブ会長の福崎正直氏を招き、法人化までの経緯や経営理念、技術手法などを研修した。活発な意見交換の後、屋久島事務所長が「成功するにはまず、人のまねをすることを講師から学んだ」と挨拶。農林普及課では、継続して意欲的に取り組む農業者への支援を図っていく。

### <屋久島4Hクラブ先進地研修～地域づくりを学ぶ～>

9月10日、屋久島4Hクラブ員8名は地域づくりを学ぶため、南九州市穎娃町の観光を活かした取組について研修を行った。その中で、地域おこしに関わっている方々との意見交換により地域づくりのノウハウを学んだ。クラブ員達は、「自分たちも出来ることから始めよう」等の地域活性化に対する意識が向上し、有意義な研修となった。今後も地域農業・農村の活性化を担う青年農業者の育成を図っていく。



### <新規就農者基礎研修会及び現地研修会を開催>

9月14日、屋久島事務所で標記研修会を開催し、指導農業士3名、本年度の新規就農者1名が出席した。土壌・肥料、病害虫、農業経営、生活設計等の農業に関する基礎知識を研修した後、指導農業士との意見交換を行った。また、現地研修は、新規就農者のほ場を巡回し、営農上の課題等について、指導農業士から助言・指導を受けた。今後の営農に役立てることが期待される。



10月



### <秋季茶園管理研修会の開催>

10月2日、屋久島事務所及び永久保の現地茶園で標記研修会を開催し、12名の生産者が参加した。秋季茶園管理のポイントや茶業経営改善対策、農作業安全対策について説明した後、現地茶園で生育状況や今後の管理等について意見交換を行った。農林普及課では、今後も引き続き、高品質茶生産による経営安定にむけて支援していく。

### <「食の文化祭」8回目を迎えました!>

10月8日、尾之間保健センターにおいて屋久島つわぶきの会が中心となり、8回目の食の文化祭を開催した。今年のテーマは「郷土の味・食事の再発見」で、参加者は42名であった。若い人の参加を増やすために保育の担当も置き、また内容もさばのなまり節をはじめとする屋久島の食材や乳製品を活用した調理を実習し、参加者から大変好評であった。今後も異世代が交流できる研修会を支援していく。





### <就農トレーナー茶部門研修の開催>

10月14日、指導農業士1名を講師に招き、現地就農トレーナー茶部門研修を開催した。若手茶業青年4名のほ場を巡回し、日頃、茶園管理上考えている事項について青年達から説明後、指導農業士から助言・指導を受けた。農林普及課では、今後も引き続き、青年農業者が早期に経営が安定できるよう指導農業士とともに支援していく。



### <タイトル『CHANGE』～変わる屋久島フルーツ 第2章 開催>

10月29日～30日、『第2章：老木からの脱却』と題して高品質果樹生産技術研修会を島内2カ所で開催し、参加者は90名であった。内容は①「有望な中晩柑類の特性について」講師：県農業開発総合センター果樹部の岩田研究専門員、②「果樹経営支援対策事業について」講師：県青果物生産出荷安定基金協会の山崎専務理事が講演を行った。アンケート結果では、②について6割が知らない、改植を6割・作業道整備を3割強が希望している。興味のある品種は、果樹部育成のKP-2（早生系）、みはや、りのかで、ぼんかんの代替樹種としてKP-2を検討中、であった。今後も、関係者と連携し支援を図りたい。

11月



### <屋久島農業経営者クラブの支部交流会を開催>

11月5～6日に、県農業経営者クラブ曾於支部との交流会を開催した。今年はクラブ員5名の他認定農業者5名も参加し、大隅加工技術研究センターや先進農家研修をとおして、先進的取組や参加者の将来の方向性について話し合い、有意義な交流となった。屋久島農業経営者クラブは、今年度も活性化とネットワークづくりを目的に活動してきたが、今後も新規会員勧誘を行うなどして、魅力あるクラブ運営を目指す計画である。

### <女性農業者の交流図る>

11月13日、尾之間保健センターにて町内の女性農業者を対象とした研修会を開催した。研修内容は①活動報告「女性農業次世代リーダー育成塾に参加して」感じたこと、気づいたこと②健康管理「やさしいヨガ」。講師は屋久島つわぶき会の会員2名。参加者は11名。情報交換も行い、和やかに交流が図られ、若手の参加者からグループを作りたい、と意欲的な感想が出され、今後も支援していく。



12月



### <平成27年の屋久島子牛販売額が2億円突破>

27年の屋久島町子牛販売頭数は318頭（昨年比30頭減）、平均セリ価格は599,296円（税抜き、昨年比82,207円高）であった。今年の子牛販売は、①昨年の子牛死亡事故の増加、②繁殖牛の更新時期による自家保留牛の増加、が原因で販売頭数が減少したが、相場の好況に支えられ、販売額は税込みで

2億円を超えたと思われる。農業普及係では継続して、繁殖成績や子牛事故率の課題を解決し、肉用牛頭数の維持確保を図る計画である。

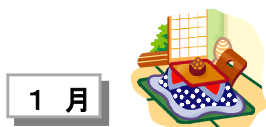
### ＜生活研究グループ機関誌「こだま」第44号を発行＞

屋久島生活研究グループでは、昭和48年から毎年、年1回機関誌を発行しており、今年度もグループ員や過去に勤務し担当した生活改良普及員、現在の農業普及係員からも寄稿してもらい、11月26日に役員らで第44号となる機関誌を製本した。グループ員らの近況や1年間の活動を振り返る記録誌の役割も果たしている。これからも活動の灯火を絶やさぬよう時代に沿った活動を支援していく。



### ＜屋久島地区実えんどう、1月から出荷見込み＞

12月11日、26年産実えんどう出荷前協議会が開催された。屋久島地区の実えんどうは、例年9月末から10月上旬に播種されるが、10月に襲来した台風18号、19号により、播種が例年より7～10日程度遅れた。本格的な出荷は1月からの見込みであり、出荷量25.6tを計画している。今年は、ヒヨドリ等の飛来数も多いことが予想されているため、防鳥ネット等で侵入防止対策を実施するよう呼びかけた。



### ＜屋久島自然の恵みチャレンジ事業～東京マーケット調査に行く～＞

1月11日～12日、屋久島自然の恵みチャレンジ事業の一環として、セミナー生2名とともに脇坂真吏6次産業化プランナーの案内のもと東京でのマーケット調査を実施した。視点は(1)観光客は、無限にある東京のお土産から何をどう選んでいたか(2)地方の加工品や産品が集う東京で都民はどのようにして商品を選んでいたか。マーケティング目線で観察し、それを手にする消費者をチェックし、必ずメモをとる。調査結果をもとに後日、報告会を行う。

### ＜屋久島自然の恵みチャレンジ事業～全6回セミナー修了～＞

1月26日、屋久島自然の恵みチャレンジ事業に係わるセミナーが修了した。のべ参加人数89名。講師は脇坂真吏6次産業化プランナー。各回のテーマは①屋久島の今を知る②屋久島の未来を考える③商品のアイデアを考える④シーズとニーズ⑤マーケティング(価値の提案)⑥ビジネスモデルの構築であった。最終回は、東京でのマーケティング調査に参加した2名の報告会も兼ねた。セミナーで得た情報や知識、参加者のネットワークを活かせるよう今後も支援する。



### ＜老若男女、交流の拠点。話題の中心は野菜づくり＞

持続的な地域農業を推進している神山校区の1つである高平集落において、H22年に地域の交流拠点として開設された「高平にこここ市」の実績検討会が1月17日会員24名の参加のもと開催された。現会員28名。毎週日曜日午前8時から午後3時までの営業。当初の目標販売額を達成し、継続的に活動している。Iターン者の受皿組織としての役割も果たしている。今後も地域活動が円滑に図られるよう支援していく。

### <焼耐用さつまいも収穫！～子供や高齢者とともに～>

湯泊地区「いけんかすっ会」では、集落内の農地を有効活用しようとして平成25年度から「焼耐用さつまいも」の栽培に取り組んでいる。3年目となる今年度は、収穫作業を集落の子供たちや「茶にせんかい」（高齢者サロンメンバー）らにも呼びかけ、1月9日～10日、実施した。参加人数はのべ28名。目標単収2トンを3年目にして初めて達成した。次年度も引き続き「焼耐用さつまいも」の栽培に取り組む予定である。今後も引き続き支援していく。



2月



### <口永良部島に現地調査！口永良部島活性事業組合の今後を考える>

2月1日、口永良部島活性事業組合が栽培している焼耐用さつまいもの収穫状況を確認した後、6名の組合員を交えて、今後の営農活動について意見交換を行った。

5月29日の噴火以降、シカによる被害等が以前より大きくなっていましたが、組合員からは、今後も継続して焼耐用さつまいも栽培を行うことで島の活性化につなげていきたいという意見が多かった。今後、農林普及課では、関係機関と連携しながら、口永良部島の復興へ向けて支援を行っていく。



### <簿記記帳グループの決算指導会に29名が参加>

簿記記帳グループ「屋久島町アグリネット」（会員数38名）の決算指導会が、2月15、16日に税理士を招いて開催され、計29名の参加があった。参加者はそれぞれ決算書や申告書のチェックを受け、申告を終えた。グループの定例記帳会への参加は8名前後であったが、昨年より会員の記帳能力は向上し、参加者からも「スムーズに決算ができるようになった」との声があった。来年は記帳者も4名増加する予定で、継続して指導する計画である。

### <屋久島町の2事業者が県堆肥コンクールで表彰>

2月4日、鹿児島市で平成27年度県堆肥コンクール表彰式があり、混合部門において(有)宝珠産業が最優秀・県知事賞を、屋久島町地力センターが奨励賞を受賞した。牛ふん・豚ふん・バーク（おがくず）・生ゴミ等を原料とし、異物除去や水分調整などを丁寧に行い、製品化までに約7ヶ月をかけた良質堆肥である。両社長とも循環型農業や環境対策に心がけており、「取組に弾みがあった」と喜びを語った。今後は、地元で製造されたものが地元で活用される取組を支援していく。



### <農水産物加工品のお味はいかが？>

2月21日、サイクリング屋久島の後夜祭が開催された。それに併せ、屋久島自然の恵みチャレンジ事業者らが、自社加工している製品について島内外からの参加者に意向を尋ねるための調査を対面聞き取り方式で行った。参加事業者は4カ所。自社製品の味や価格、今後どのような加工品を期待しているかなどを問うた。調査結果をもとに自社加工品を改善したり、第7回セミナーでその報告を行ったり、と活用していく。



## 平成27年度活動体制

職 名	氏 名	担 当 業 務
農林普及課長	淵之上 修一	課の総括
技術主幹兼農業普及係長	田淵 昭徳	係の総括, 果樹, ブランド育成
技術専門員	上福元真寿美	地域営農, 食育・地産地消, 女性起業
技術専門員	徳田 博幸	畜産, 経営, 担い手育成, 制度金融
技術主査	内村 浩一郎	茶, 新規就農・青年農業者育成
技術主査	入料 珠美	野菜, 作物, 花き, 土壌肥料, 病害虫